

CSRの取り組み

| | |
|------------------|-----|
| 品質への取り組み | 64 |
| お客様とともに | 65 |
| お取引先様とともに | 73 |
| 従業員とともに | 75 |
| 株主・投資家の皆様とともに | 83 |
| 地域社会とともに | 88 |
| 国内工場・技術センターの取り組み | 96 |
| 国内販売代理店の取り組み | 103 |
| 海外グループ会社の取り組み | 106 |
| スズキの財団活動等 | 115 |

はじめに

環境

CSR

コーポレート
ガバナンス

データ集

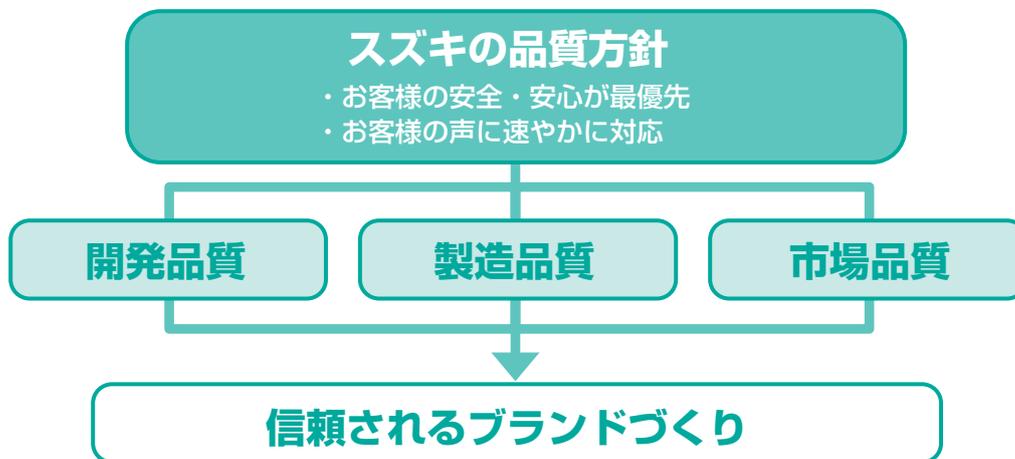
ガイドライン対照表

品質への取り組み

スズキグループでは「ものづくりの強化」の最重要事項として、「品質最優先」に取り組んでいます。お客様の安全・安心を最優先に考え、高品質でお客様に安心して使っていただける製品の開発・生産を行い、アフターサービスでもお客様の声に速やかに対応することで、信頼されるブランドを目指しています。

スズキの品質方針

お客様に安全に、安心してスズキの製品を使っていただくために、製品を開発・設計する段階に始まり、生産工場における製造の段階、そして市場にてお客様に製品を販売し、さらにアフターサービスの提供に至る段階まで、全てのプロセスに携わる部門が横断的に、お客様の立場になって品質を高めるための取り組みを推進しています。



品質マネジメントシステム

スズキグループでは、国際標準規格であるISO9001を品質マネジメントシステムとして導入しています。国内6工場をはじめ、インド、インドネシア、タイ、ハンガリーなどの海外主要工場でもISO9001を取得しています。

2017年度はインドの四輪車生産子会社スズキ・モーター・グジャラート社でも新たに認証を取得し、同年度のスズキグループ四輪車世界生産台数(3,338千台)に占めるISO9001取得工場での生産実績は約93%になります。

さらに2018年6月にはパキスタンのパックスズキモーター社でも認証を取得しました。今後もスズキグループ全体で品質マネジメントを推進し、品質の向上に取り組んでいきます。

ISO9001取得状況

| | 国名 | 工場名 |
|----|-------|---------------------|
| 1 | 日本 | スズキ(株) 湖西工場 |
| 2 | | 大須賀工場 |
| 3 | | 相良工場 |
| 4 | | 豊川工場 |
| 5 | | 高塚工場 |
| 6 | | 磐田工場 |
| 7 | インド | マルチ・スズキ・インディア社 |
| 8 | | スズキ・モーター・グジャラート社 |
| 9 | | スズキ・モーターサイクル・インディア社 |
| 10 | パキスタン | パックスズキモーター社 |

| | 国名 | 工場名 |
|----|--------|-------------------|
| 11 | インドネシア | スズキ・インドモービル・モーター社 |
| 12 | タイ | スズキ・モーター・タイランド社 |
| 13 | | タイスズキ社 |
| 14 | ベトナム | ベトナムスズキ社 |
| 15 | ハンガリー | マジャールスズキ社 |
| 16 | コロンビア | スズキ・モーター・コロンビア社 |
| 17 | 中国 | 重慶長安鈴木汽車有限公司※ |
| 18 | | 済南軽騎鈴木摩托車有限公司 |
| 19 | | 常州豪爵鈴木摩托車有限公司 |

・2018年6月末時点 ※重慶長安鈴木汽車有限公司はIATF16949を取得

はじめに

環境

CSR

コーポレート
ガバナンス

データ集

ガイドライン対照表



お客様とともに

お客様相談室

スズキお客様相談室には、年間約8万6千件(2017年度実績)のお客様からの声が寄せられています。

お客様とスズキが直接つながる窓口として、これらの様々なお申し出に対し、お客様の立場になった迅速で的確、丁寧な対応を心がけ、お客様に安心とご満足いただける相談室を目指して、日々CSの向上に努めています。

対応品質の向上

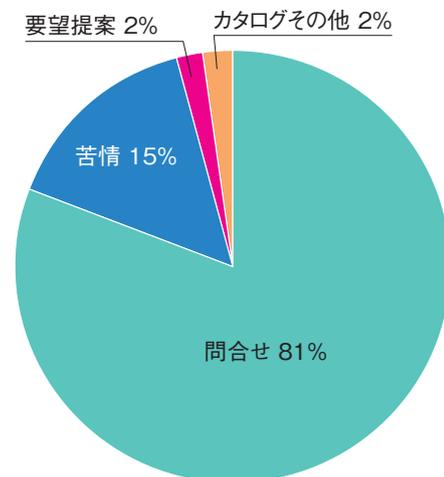
ハイブリッドや軽量高剛性プラットフォーム「HEARTECT(ハーテクト)」、衝突被害軽減ブレーキや車線逸脱抑制機能といった環境・安全技術、ネットワークと連携する車載情報機器など、自動車の構造はますます複雑化しています。スズキお客様相談室では、こうした新技術へのお問合せはもとより、初めて車を運転されるお客様の初歩的なご質問やリコール修理のご相談など、多様なお申し出に対し、わかりやすい説明を心がけ、安全・安心してご利用いただける対応に努めています。また、迅速・的確な対応をさせていただくため、お客様サポート支援システムなどのツール整備を図るほか、製品のご購入やメンテナンス等、当地での対応が必要なご用件には、全国のスズキ・ネットワークと連携して、適切なサポートを実施しています。

製品・サービス品質の向上

お客様からいただいた貴重な声は、品質やサービスを向上させるための“大切な宝物”と捉え、お申し出を社内各部門に伝えて、商品開発、製造、品質、販売及びアフターサービス等の改善や向上につなげています。これらの貴重な情報は、データを一元管理するシステムによって効率的に管理し、個人情報の保護に配慮した上で社内イントラネットに掲載するほか、情報の重要度に応じて即時に社内展開する体制作りも行っています。また、直接的なご意見、ご要望だけでなく、集められた情報を精査することにより、お客様の潜在的な要望を抽出してまとめ、担当部門に情報提供する場合もあります。

スズキお客様相談室は、今後も皆様がより利用しやすく、安心して信頼のできる「お客様相談室」を目指し、常に業務の改善に努力してまいります。

2017年度ご相談件数 約8万6千件の内訳



はじめに

環境

CSR

コーポレート
ガバナンス

データ集

ガイドライン対照表

福祉車両(ウィズシリーズ)

スズキは身体に障がいのある方やご高齢の方が容易に四輪車に乗降できるように設計した福祉車両(ウィズシリーズ)を1996年から提供しています。

現在は「車いす移動車」、「昇降シート車」の2タイプ4車種を設定しています。目的や使用環境に合わせてお客様が選択しやすいように福祉車両の充実を図っています。

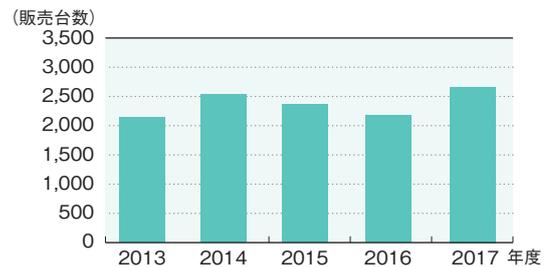
スズキ福祉車両

WITH

シリーズ



ウィズシリーズ販売台数



車いす移動車

要介助者が車両後部から車いすに座った状態で乗降できる車両です。低床設計のため、介助者は容易に要介助者を乗降させることができます。この車両には手動車いすやモーターチェアを載せることができ、スペースシア、エブライワゴン、エブライに設定しています。



スペースシア 車いす移動車

昇降シート車

リモコンで助手席のシートを上昇、回転、降下させることができる車両です。要介助者が乗降する際、シートを乗降しやすい位置まで動かせるため、介助者の負担が軽減します。ワゴンRに設定しています。



ワゴンR 昇降シート車

電動車いす

スズキは、身体に障がいのある方やご高齢の方が目的や使用状況に合わせて選択しやすいように電動車いすのラインアップを充実させています。

※電動車いす(セニアカー、モーターチェア)は道路交通法上、歩行者として扱われ、運転免許は不要です。

セニアカー

自操用ハンドル形の電動車いすで、1985年に販売開始しました。主にご高齢の方や足腰の不自由な方が気軽に外出できるように作られた電動車いすで、時速1~6kmで速度の調節が可能です。



ET4D



ET4E

はじめに

環境

CSR

コーポレート
ガバナンス

データ集

ガイドライン対照表

タウンカート

市街地や都市部での使用に配慮したコンパクトタイプのセニアカー。速度調節が時速1～6kmの範囲で可能で、1.1mの旋回半径で小回りがききます。



タウンカート

モーターチェア

自操用標準形の電動車いすで、1974年に販売開始しました。この電動車いすは主に身体に障がいのある方用として開発したもので、方向や速度を操作レバー（ジョイスティック）で操作し、2つのモーターで後二輪をそれぞれ直接駆動することによりその場での旋回を可能にしています。屋内外で利用でき、利用者の行動範囲を広げます。



MC 3000S

●安全運転講習会“事故防止に向けて”

スズキは電動車いすを「より安全に」ご利用いただくため、対面販売並びに実車を使った取り扱い指導を実施し、製品の取り扱い方法について理解を深めていただくよう取り組んでいます。更にご購入いただいた後も地域警察や交通安全協会等と協力し「電動車いす安全運転講習会」を実施しています。講習会では講義と実技講習によって受講者の交通安全意識の向上を図り、交通事故等の防止に努めています。

さらに、スズキは新規に電動車いすをご利用される方がより安全に運転をされるよう、安全利用のための冊子やDVDを配布し安全運転の啓発を進めています。

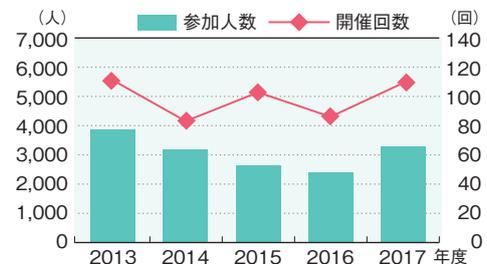


安全利用のための冊子・DVD 配布実績

| | 2014年度 | 2015年度 | 2016年度 | 2017年度 | 4年間計 |
|-----|---------|---------|--------|--------|---------|
| 冊子 | 12,477冊 | 10,000冊 | 8,153冊 | 8,000冊 | 38,630冊 |
| DVD | 3,280枚 | 5,958枚 | 4,772枚 | 5,160枚 | 19,170枚 |

冊子及びDVDの内容は電動車いす安全普及協会のホームページでご覧いただけます。 <http://www.den-ankyo.org/>

ユーザー安全運転講習会 開催実績の推移



●電動車いす安全普及協会での活動

電動車いす安全普及協会（電安協）とは、利用者に電動車いすを正しく安全にお使いいただくために、メーカーや販売会社等が発足させた団体のことです。電動車いすの安全かつ健全な利用を推進することによりその普及を図り、道路交通の安全に寄与することを目的としています。スズキは、電安協の会員として、電動車いすを安心して利用する活動を推進しています。

●電動車いす安全指導表彰制度について

電動車いす安全指導表彰制度とは、電動車いすの安全利用方法等について、交通安全教育、広報啓発活動を促進し、電動車いすが関係する交通事故を防止するための活動を積極的に実施している電動車いす関係者を警察庁交通局が表彰する制度です。スズキは電安協の事務局として、電動車いす安全指導表彰制度を積極的に推進しています。

警察庁 電動車いす交通安全指導表彰 実績

| | | |
|--------|-----|---------------------------|
| 2017年度 | 優秀賞 | 岐阜スズキ販売(株) |
| | 優良賞 | (株)スズキ自販鹿児島 (株)スズキ自販熊本 |



はじめに

環境

CSR

コーポレート
ガバナンス

データ集

ガイドライン対照表

安全への取り組み

スズキは、歩行者、自転車、二輪車、四輪車等、すべての人がお互いに安全なモビリティ社会で暮らせるよう、「安全技術の取り組み」を強化し、積極的に安全性を向上させています。

スズキ セーフティ サポート

安心して、楽しくスズキのクルマに乗っていただきたいという想いから生まれた予防安全技術「スズキ セーフティ サポート」。

事故を未然に防ぎ、お客様の万一のときの安全を確保するために、運転をサポートする様々な技術で、ヒヤリとする場面も限りなくゼロに近づけていきます。

SUZUKI
Safety Support

スズキの予防安全技術

●スズキ セーフティ サポートの商品展開

| 衝突被害軽減ブレーキ | デュアルセンサー ブレーキサポート | デュアルカメラ ブレーキサポート | レーダーブレーキ サポート | レーダーブレーキ サポートII | — |
|----------------------|--|---|---|--|---|
| 対象車種 |  スペーシア / スペーシアカスタム  ワゴンR / ワゴンR スティングレー  ジムニー / ジムニーシエラ  クロスビー  スイフト / スイフトスポーツ |  ハスラー  ソリオ / ソリオバンディット  イグニス |  アルト / アルトワークス / アルトターボRS / アルトバン(商用車)  ラパン  ハスラー  エブリイ(商用車) / エブリイワゴン |  エスクード  パレーノ |  キャリイ(商用車) / スーパーキャリイ(商用車) |
| 後退時ブレーキサポート | スペーシア クロスビー | ソリオ | | | |
| 誤発進抑制機能 | ● | ● | ● | | ● |
| 後方誤発進抑制機能 | スペーシア クロスビー | ソリオ | | | ● |
| 車線逸脱警報装置 | ● | ● | | | |
| ふらつき警報装置 | ● | ● | | | |
| 標識認識機能 | スペーシア ジムニー / ジムニーシエラ | | | | |
| ヘッドアップディスプレイ | スペーシア ワゴンR | | | | |
| 先行車発進お知らせ機能 | ● | ● | ハスラー | | |
| ハイビームアシスト | ● | ソリオ | | | |
| 全方位モニター用カメラ | スペーシア / ワゴンR クロスビー / スイフト | ● | ハスラー ラパン | | |
| アダプティブ クルーズコントロール | スイフト | ソリオ | | パレーノ | |

※2018年7月現在。※対応車種・グレードについては、各車両カタログをご確認ください。

はじめに

環境

CSR

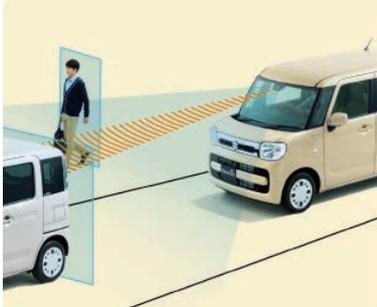
コーポレート
ガバナンス

データ集

ガイドライン対照表

●スズキ セーフティ サポート(予防安全)の主な機能(イメージは新型スペーシア)

ぶつかる前に、自動でブレーキ。

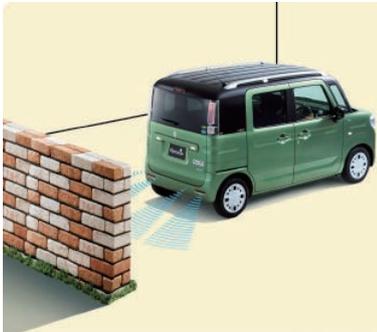


**人にも、車にも作動する衝突被害軽減ブレーキ。
〔デュアルセンサーブレーキサポート〕**

フロントガラスに設置した「デュアルセンサー」が、前方のクルマや人を検知。近距離や夜間の検知に優れたレーザーレーダーと、中・長距離に強く歩行者も認識する単眼カメラを組み合わせ、万一の危険を察知し、自動ブレーキなどで衝突回避をサポートします。



後ろにも「ぶつからない安心」を。



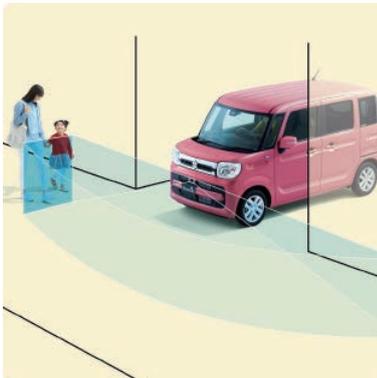
**バック時にも、自動ブレーキが作動。
〔後退時ブレーキサポート〕**

リヤバンパーに4つの超音波センサーを内蔵し、車両後方にある障害物を検知。透明なガラスなども検知でき、コンビニの駐車場などでの衝突回避をサポートします。

※スペーシアが軽自動車ですべて初めて採用(2017年12月スズキ調べ)



全方位モニターが、視界のカベをなくします。



**見えない場所を映し出す。
〔全方位モニター用カメラ〕**

メーカーオプションの「全方位モニター用カメラパッケージ装着車」には、クルマの前後左右に4つのカメラを設置。別売の対応ナビゲーション(販売会社装着アクセサリ)を装着すれば、クルマを真上から見たような映像などを映し出す「全方位モニター」に。見通しの悪い場所で人などが近づいてくるとお知らせする「左右確認サポート機能」も前後に装備し、運転席から見えにくい周辺状況の確認をサポートします。

※全方位モニター用カメラパッケージ装着車



目を離さなくてすむ、安心感。



**欲しい情報を、視界の中に。
〔フロントガラス投影式のヘッドアップディスプレイ〕**

運転に必要な情報をフロントガラスにカラーで映し出す、フロントガラス投影式のヘッドアップディスプレイ。車速やシフト位置、デュアルセンサーブレーキサポートの警告などが、視線の先に焦点を合わせやすいように表示され、メーターパネルを見なくても確認可能。ドライバーの視線移動や焦点の調節を減らし、安全運転に貢献します。



交差点案内表示



前方衝突警報表示



進入禁止表示

はじめに

環境

CSR

コーポレート
ガバナンス

データ集

ガイドライン対照表

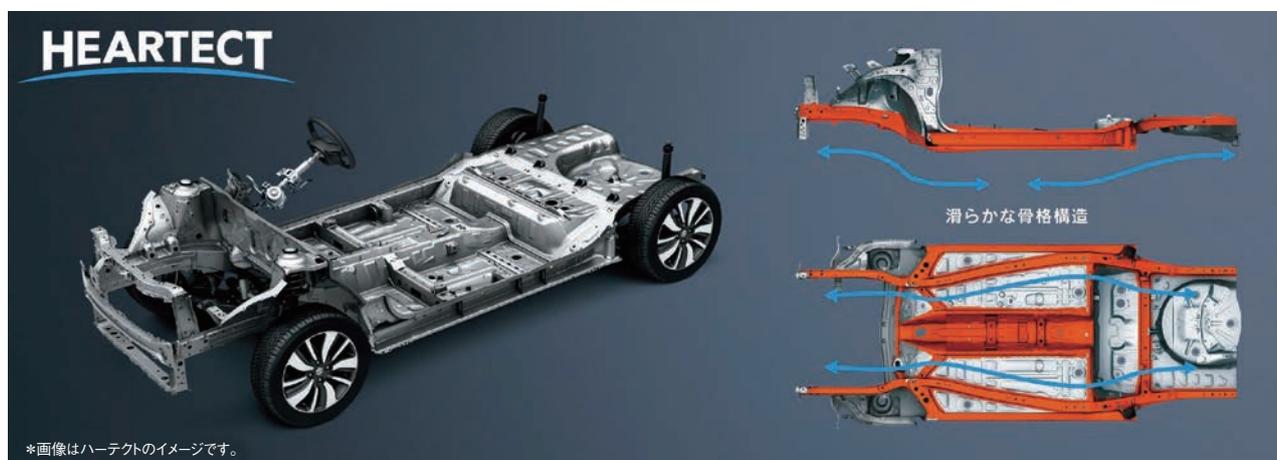
TOPICS

スズキ「スイフト」がJNCAP衝突安全性能評価で最高ランクの「ファイブスター賞」を受賞

スズキの小型乗用車「スイフト」の「デュアルセンサーブレーキサポート(DSBS)」搭載車※1が、平成29年度JNCAP※2自動車アセスメントの衝突安全性能評価において最高ランクの評価となる「ファイブスター賞」を受賞しました。

JNCAP自動車アセスメントは、国土交通省と独立行政法人自動車事故対策機構(NASVA※3)が自動車の安全性能を評価し、結果を公表する制度です。衝突安全性能評価は、「乗員保護性能評価」、「歩行者保護性能評価」、「座席ベルトの非装着時警報装置(シートベルトリマインダー)評価」の3項目での評価スコアを基に5段階の総合評価が行われています。

「スイフト」は、軽量高剛性の新プラットフォーム「HEARTECT(ハーテクト)」に加え、軽量衝撃吸収ボディー「TECT(テクト)」を採用し、衝突時の安全性能の向上を図っています。さらに、スズキの予防安全技術「スズキ セーフティ サポート」の衝突被害軽減ブレーキ「デュアルセンサーブレーキサポート(DSBS)」を採用するなど、アクティブセーフティとパッシブセーフティの両面から安全対策を図っています。



*画像はハーテクトのイメージです。

※1 HYBRID SLに標準装備。RSt, HYBRID RS, RS, HYBRID ML, XLにセーフティパッケージとしてメーカーオプション設定。

※2 JNCAP:Japan New Car Assessment Program

※3 NASVA:National Agency for Automotive Safety and Victim's Aid

はじめに

環境

CSR

コーポレート
ガバナンス

データ集

ガイドライン対照表

二輪車における取り組み

二輪車業界団体との協力による安全と防犯への取り組み

(一社)日本二輪車普及安全協会に参画し、二輪車安全運転推進委員会と協力して、「二輪車安全運転実技講習会」等への指導員派遣や、「グッドライダーミーティング」等、安全運転講習会の開催に努めています。

また、二輪車の盗難防止を目的に実施している「グッドライダー防犯登録」の普及推進にも協力しています。

(一財)全日本交通安全協会主催の「二輪車安全運転特別指導員育成講習会」や「特別指導員中央研修会」にも専門員を派遣し、指導員の育成・普及推進に協力すると共に、毎年行われている同協会主催の「二輪車安全運転全国大会」には、競技用車両の提供や審判員の派遣を行い、広く二輪車の安全啓発活動に取り組んでいます。

8月19日は「バイクの日」として、(一社)日本自動車工業会等の業界団体と協力し、バイクの楽しさと交通安全をPRするイベントの開催等を行っています。



「スズキ セーフティスクール」の開催

2008年よりスズキの二輪車を購入された一般のお客様を対象に、竜洋コース内二輪車教習所にて、手軽に楽しく安全運転が学べる「スズキ セーフティスクール」を開催しています。

対象は、運転に自信のないビギナー、久しぶりにバイクに乗るリターンライダーから、運転には自信があるが、再度、基本や新交通ルール・マナーを学びたいというベテランまで、幅広く受け入れています。

「走る・曲がる・止まる」といった基本カリキュラムから、「危険予測」・「ハイウェイ体験走行」まで、セットで楽しく学ぶことができる講習会として、2017年は6回開催し152名が受講されました。



はじめに

環境

CSR

コーポレート
ガバナンス

データ集

ガイドライン対照表

「バイクのふるさと浜松」への協力

国内オートバイ産業発祥の地である浜松から全国へ、その情報や文化、魅力の発信を行う「バイクのふるさと浜松」。2003年より開催され、2017年は15回目の開催となりました。スズキはこのイベントに協力することで、二輪車に憧れものづくりを担う次世代の人材育成や、ツーリング企画、観光産業を通じた、二輪車愛好家を集う街づくりに貢献しています。



社内安全運転講習会

二輪車を製造・販売しているメーカーとして、新入社員や二輪通勤者、関連会社、代理店社員等を対象に、「二輪車安全運転講習会」を毎年定期的で開催しており、2017年は4回開催し143名が受講されました。

今後も継続的に開催することにより、安全運転意識と基本操作の向上、交通ルールの遵守、マナーの向上を目的に、二輪車メーカーの社員として、他のライダーの模範となるような交通安全教育を実施し、交通マナーの向上を指導してまいります。



「サンデーSRF※ in 竜洋」オフロード講習会の開催

オフロードモータースポーツの社会的普及の根おこし活動として、スズキのコンペティションモデルDR-Z50、RMシリーズをご購入いただいた、ビギナーからベテランまで幅広いユーザーを対象に、毎年竜洋オフロードコースを利用して、テクニカルスクールを開催しています。

国際A級ライダーをインストラクターに招き、マンツーマンで手ほどきを受けられる充実した内容になっています。

2017年は、7回開催し257名が受講されました。

これまで多くのお客様に参加していただき、オフロードでの基本テクニックを習得していただきました。今後も継続して開催していきます。

※SRF(スズキ・ライディング・フォーラム)は、マシンメンテナンス、ライディングテクニックからメンタルトレーニングまで、オフロードテクニックのレベルアップを目指すことで、スズキのコンペティションモデルを安全に正しく扱っていただき、スズキモータースポーツユーザーの育成と、オフロードモータースポーツの普及を目的に活動するクラブ組織です。



はじめに

環境

CSR

コーポレート
ガバナンス

データ集

ガイドライン対照表



お取引先様とともに

スズキは、「消費者の立場になって価値ある製品を作ろう」を社是の第一に掲げ、社会貢献を目指しています。この「価値ある製品づくり」において、お取引先様と対等な立場で相互に協力し、ともに繁栄できる関係を構築することがスズキの役割と考えています。そのお取引先様は、品質・コスト・納期・技術・危機管理・過去の実績の6つの原則に基づき、公平公正な手続きにより選定されます。また、企業規模及び取引実績の有無、国や地域を問わず、あらゆる企業に対して取引参入機会の門戸を広く開放しています。

継続的な取引

スズキは、パートナーであるお取引先様と信頼関係を構築することで、継続的な取引関係の確立を目指しています。このためには、相互のコミュニケーションが最重要と考え、スズキのお取引先様を対象に毎年1回「購買方針説明会」を開催し、スズキの政策や商品・生産計画を共有するとともに、それらに基づく購買方針を伝え、相互理解に努めています。

また、日頃からトップからミドルマネジメントクラスの意見交換はもとより、実務担当者クラスの方々とのコミュニケーションの促進を図っています。

グローバル購買活動

スズキは、世界中の生産拠点と連携し、グローバルな購買活動を加速させていきます。従来、主に各生産拠点ごとで進めてきた活動を、グローバルな最適購買に軸を移し、世界中から競争力のある価格で部品を購買します。これはスズキにとってのメリットだけでなく、パートナーのお取引先様にとっても「量」を背景とした安定取引や、技術的な蓄積等の様々なメリットが生じ、これらを共有することで、さらなる信頼関係の構築に繋がります。

事業継続計画の取り組み

スズキでは、各事業所の耐震補強工事の他、事業継続計画(BCP:Business Continuity Plan)を作成しています。また、地震、津波など大規模災害への備えは、地域社会やお取引先様、お客様への責任であると認識しています。大きな被害が予想される地域のお取引先様に対しては、耐震をはじめとする防災対策を推奨し、万一被災された場合の速やかな復旧のために、お取引先様とともに取り組んでいます。

法令遵守・人権尊重・環境保全についての取り組み

スズキでは、各国・地域の法令の遵守(日本では「下請代金支払遅延等防止法(下請法)」の遵守、「自動車産業適正取引ガイドライン」の調達五原則に則った取引の実施など)、人権の尊重、環境保全に取り組んでいます。また、同様にお取引先様に対しても、「お取引先様CSRガイドライン」を策定し、法令の遵守、人権の尊重、環境保全への取り組みを実践するよう求めています。

●人権に関する基本的な考え方

「スズキグループ行動指針」にも定めている通り、スズキグループ(スズキ株式会社及び国内・海外グループ会社)では「人権の尊重」の徹底を図っています。調達活動においても、人権侵害につながるあらゆる行為に加担する意思はありません。スズキグループはお取引先様と連携しながら人権尊重への取り組みを進めていきます。

(人権に関する取り組み事項)

- あらゆる形態のハラスメント行為の禁止
- 安全・健康な労働環境と良好な労使関係
- 雇用における差別の撤廃
- 児童労働、強制労働の禁止
- 人権侵害の原因となる紛争鉱物の不使用

はじめに

環境

CSR

コーポレート
ガバナンス

データ集

ガイドライン対照表

●スズキお取引先様CSRガイドライン

スズキでは事業活動のグローバル展開に伴い、お取引先様を始めとするステークホルダー（利害関係者）の多国籍化、多様化が進んでおり、各国の法令・社会規範に従うことはもとより、文化や歴史に配慮して社会的責任を果たすことへの期待が高まっています。

こうした社会的要請を踏まえて、ビジネスパートナーであるお取引先様と共に果たすべき社会的責任の基本的な考え方、実践すべき事柄を「スズキお取引先様CSRガイドライン」としてまとめました。スズキグループの全ての調達活動にあたり、お取引先様には当ガイドラインの遵守を要請しています。

お取引先様におかれましては、趣旨ご理解の上、当社と一体のCSR活動の推進にご協力をお願い致します。



<http://www.suzuki.co.jp/about/csr/green/guideline/index.html>

(ガイドラインの実効性を維持するための取り組み)

- スズキのお取引先様を対象に年1回、温室効果ガスの排出量や水の消費量に関する調査を実施し、環境保全に関わる取り組みの把握に努めています。
- 下請事業者への一方的な原価低減要請や支払遅延をサプライチェーン全体で防止する為、事案毎の説明会を随時開催し、適正取引の浸透を図っています。
- スズキの品質保証の基本方針、活動、要求事項をまとめた『取引先品質保証マニュアル』に基づいた品質監査を、品質ランクによる頻度に沿って定期的に行っています。

お取引先様CSRガイドライン(抜粋)

1.安全・品質

- お客様のニーズに応える製品・サービスの提供
- 製品・サービスに関する適切な情報の提供
- 製品・サービスの安全確保
- 製品・サービスの品質確保

3.環境

- 環境マネジメント
- 温室効果ガスの排出削減
- 大気・水・土壌等の環境汚染防止
- 省資源・廃棄物の削減
- 化学物質の管理

2.人権・労働

- 差別撤廃
- 人権尊重
- 児童労働の禁止
- 強制労働の禁止
- 人権侵害などの原因となる紛争鉱物の不使用
- 賃金
- 労働時間
- 従業員との対話・協議
- 安全・健康な労働環境

4.法令の遵守(コンプライアンス)

- 法令の遵守
- 競争法の遵守
- 腐敗の防止
- 反社会的勢力との関係の遮断
- 機密情報の管理・保護
- 輸出取引管理
- 知的財産の保護

5.情報開示

- ステークホルダー(利害関係者)への情報開示

はじめに

環境

CSR

コーポレート
ガバナンス

データ集

ガイドライン対照表



従業員とともに

スズキでは、「消費者(お客様)の立場になって価値ある製品を作ろう」の社是のもと、従業員一人ひとりが、自ら考え行動し、お客様の暮らしを豊かにする製品をご提供することを使命に活動しています。

会社は、従業員の雇用の安定を最優先に考え、かつ健全で働きやすい職場づくりのために、労働諸条件の改善に努め、従業員はお互いに協力し合い、「チームスズキ」の精神で、社会貢献できる人財になることを目指し、労使が一致団結して、清新な会社づくりを行っています。

さらに、従業員が「やる気」と「向上心」を持って、大きな未来へ挑戦していく企業風土を醸成するために、以下の項目に重点を置いて制度・環境づくりに取り組んでいます。

従業員が安全・安心かつ
健康に働ける職場づくり

高い目標に挑戦する人財を
評価・支援する制度づくり

良好で安定した労使関係づくり

安全・衛生及び交通安全に対する取り組み

安全・衛生

スズキでは、安全基本理念を掲げて安全衛生管理活動を推進しています。

安全基本理念

●「安全はすべてに優先する。」～Make Safety as first priority.(Safety First)～

企業活動の根幹は「人」である。

その「人」を守る安全には、いかなる時にも、一番の優先順位を与えなければならない。

●「労災はすべて防ぐことができる。」～All accidents are preventable.～

管理者は、「労災は必ず防げる」という強い信念をもって、日々職場をリードしなければならない。

●「安全はみんなの責任である。」～Safety is everyone's responsibility.～

会社がやるべきことを行なうと共に、一人ひとりが、自分の身を自分で守る、責任ある行動をとらなければならない。

みんなが、ルールを守り、注意し合える職場風土を全員でつくろう。

はじめに

環境

CSR

コーポレート
ガバナンス

データ集

ガイドライン対照表

●安全衛生管理体制

各事業所の代表と労働組合の代表が出席する「中央安全衛生委員会」を年2回開催し、全社の「労働安全」、「労働衛生」、「交通安全」に関する基本方針を決定しています。

また、中央安全衛生委員会による中央安全パトロールを年1回実施し、部門間のクロスチェックによる安全の横串活動により社内の安全意識を高めています。各事業所においては、部門安全衛生委員会を設置しており、中央安全衛生委員会の方針を元に各事業所にて日々、安全衛生活動に取り組んでいます。

●リスクアセスメント活動

スズキでは予防を中心とした安全先取り活動として「リスクアセスメント」を実施しています。作業におけるリスクを洗い出し、その対策を進めることで安全性の向上を図っています。2001年よりヒヤリ・ハット事例のリスクアセスメントを導入し、2013年より定常作業のリスクアセスメントに取り組んでいます。

災害度数率の推移



健康管理

疾病の早期発見・早期治療を目的に、1995年4月から40歳以上の従業員に対し、人間ドックと歯科検診を義務付けています。更に、受診後のフォローとして、健康教室の開催、栄養指導等も定期的に行っています。

また、近年増加傾向にあるストレスやメンタルヘルス対策として、以下の取り組みを実施しています。

- 改正労働安全衛生法に基づく「ストレスチェック」の実施。
- 従業員が有効なセルフケアを行えるよう、社内イントラネットや講習会を利用した従業員へのメンタルヘルス等の健康情報提供
- 各職場のケア促進を図るため、主に管理職を対象に産業医や保健師・看護師によるメンタルヘルスラインケア講習会を開催
- 従業員が気軽に相談できるよう、社内医務室に精神科医や臨床心理士による「心の相談室」を開設
- 若年層に対しては、入社年次に合わせたメンタルヘルスセルフケア教育を実施
- 新任役職者には、セルフケア教育に加え、ラインケア教育も合わせて実施

交通安全

一人ひとりが四輪車・二輪車メーカーの従業員として自覚を持ち、社会の規範となる運転を心掛けるよう、業務上や通勤途上の交通事故のみならず、私用での運転についても交通事故防止を図るため、以下の取り組みを積極的に実施しています。

- 通勤経路ヒヤリマップの作成
- 小グループでの交通ヒヤリ・ハット、危険予知訓練活動
- 公道のみならず構内交通ルールの指導、徹底
- 所轄警察署による交通安全教育
- 運転適性検査による個別指導
- 長期連休前の交通安全呼びかけ
- 同乗や、ドライブレコーダーを使用した運転指導

はじめに

環境

CSR

コーポレート
ガバナンス

データ集

ガイドライン対照表

キャリアアップのための取り組み

困難な目標への挑戦こそ、自らを成長させる道であり、それこそがスズキのDNAと考えます。めまぐるしく変化する市場環境に対応するため、社員ひとり一人が高い目標を設定し、より高度な専門能力の修得に向け、挑戦していかなければなりません。スズキでは、このような個人のチャレンジ精神をバックアップする充実した人財育成を実施しています。

目標チャレンジ制度

業務の遂行にあたり、上司からの業務指示を受けるだけでなく、自らの業務について自主的に目標を設定し、チャレンジすることこそが自己を向上させる道だと考えます。スズキでは、高い目標を掲げ、それにチャレンジする仕組みとして目標チャレンジ制度を導入しています。半期ごとに本人と上司が話し合って今後半年間の目標を立てることで、努力目標が具体的に本人の仕事への意欲向上に繋がることに加え、上司が本人の目標達成度を適切に評価し、本人の能力開発のための指導育成ポイントを的確に把握できるという効果が現われています。

また、スズキの人事制度は、年功序列から脱却した職務重視の人事制度で、スズキの更なる成長を担うプロの人財育成を図るとともに、人事処遇のしほみを仕事、役割、責任と成果に応じた客観性・納得性の高いものとしています。職務重視の人事制度と目標チャレンジ制度が、従業員のキャリアアップをバックアップしています。

自己申告制度

年1回、自らの仕事と能力を振り返ることで、自己の強み・弱みを再確認し、能力開発につなげるとともに、将来チャレンジしたい仕事や部門をキャリアプランとして描き、その内容を上司と人事部門に申告する制度です。申告内容は、人財育成と人財の適正配置の基礎資料として、活用しています。

ローテーション制度

従業員の知識、技術力の向上並びに組織の活性化を目的として、技術職、事務職、営業職の若手従業員については、入社10年間で全員他部門への異動を経験することを目標に掲げ、全社で異動計画を作成し、計画的な人財ローテーションを実施しています。

海外研修プログラム

2015年度より、グローバル人財の育成を目的に、若手従業員を対象に、海外の関係会社への「6ヶ月間の海外研修出張派遣」を実施しています。

(2015～2017年度累計17名…2015年度=6名、2016年度=6名、2017年度=5名)

語学力向上プログラム

従業員の語学力の向上を目的に、入社から7年目までの若手従業員については、各自がTOEICの目標点数を設定し、受験料は会社負担で、毎年TOEICを受験できる仕組みを導入しています。

また、就業前と終業後に、社内に外部講師を招き、英語・スペイン語・中国語・タイ語・インドネシア語などの語学セミナーを開講するとともに、社外の教育機関が主催する通信教育講座を斡旋し、語学力の向上を支援しています。なお、修了者には費用の一部を会社が助成しています。2017年度は692名が受講しました。

安心して働ける快適な職場環境づくり

スズキは、企業活動の担い手である従業員が心身共に充実した状態で意欲と能力を発揮できるための環境づくりに努めています。多様化する働き方に会社として積極的に対応することで、従業員が生き生きと働けるよう、さまざまな支援制度を導入しています。また、快適な職場環境づくりによって、より生産性を高める働き方への意識改革を進めていきます。

労働時間短縮の取り組み

従業員が長時間の労働によって健康を害する事が無いよう、様々な施策を適宜導入して、労働時間の短縮に取り組んでいます。

- 総労働時間をベースとした残業時間管理の厳格化。
- 早朝・深夜の勤務を禁止するフレキシブルタイム制の導入。
- 継続した休息時間を確保する勤務時間インターバル制の導入。

育児短時間勤務制度

小学校3年生までの子どもを養育する従業員は、本人の申し出により1日の所定労働時間を短縮した勤務が可能となる制度を導入しており、2017年度は204名が利用しました。この制度を利用する従業員は、原則として所定時間外勤務が免除されます。また、専用の社員駐車場を会社構内に設ける事により、就業時間前後の子どもの送迎に対応し易くするよう配慮しています。

幼い子を養育する従業員が多様な働き方を選択できる制度をつくることで、意欲と能力を持った従業員が継続して働ける環境を整えています。職場全体で育児支援への意識を高めるとともに、短時間勤務者を支えることができる「働きやすい職場」づくりを推進していきます。

| | | 2014年 | 2015年 | 2016年 | 2017年 |
|---------------|---|--------|--------|--------|--------|
| 育児短時間 利用者数 | 男 | 1 | 2 | 3 | 3 |
| | 女 | 125 | 160 | 176 | 201 |
| | 計 | 126 | 162 | 179 | 204 |
| 育児休職 利用者数 | 男 | 1 | 2 | 8 | 7 |
| | 女 | 65 | 72 | 60 | 84 |
| | 計 | 66 | 74 | 68 | 91 |
| 育児休職 復職率 | 男 | 100.0% | 100.0% | 100.0% | 100.0% |
| | 女 | 98.5% | 100.0% | 90.0% | 97.1% |
| | 計 | 98.5% | 100.0% | 91.2% | 97.3% |
| 介護休職 利用者数 | 男 | 1 | 2 | 4 | 1 |
| | 女 | 2 | 0 | 2 | 1 |
| | 計 | 3 | 2 | 6 | 2 |
| 介護休職 復職率 | 男 | 100.0% | 100.0% | 25.0% | 100.0% |
| | 女 | 0.0% | - | 100.0% | 100.0% |
| | 計 | 33.3% | 100.0% | 50.0% | 100.0% |

育児・介護休職制度

働く意欲・能力がありながら、育児・介護といった自己(家庭)の都合で就労が困難な場合に対して、様々な休職制度を用意しており、男女を問わず多くの従業員が利用しています(2017年度は91名がこの制度を利用しました)。

産前産後休暇を取得したのち、生まれた子供が1歳になる日(誕生日)の前日まで取得できる育児休職は、その子供が保育園に入所できない等の理由がある場合には、その期間を最長で1年延長可能です。

家族の介護等で休業を行う場合は、対象家族一人につき通算365日まで介護休職が取得できます。また、有給休暇とは別に、親や子供の介護をする場合に利用できる傷病・介護休職制度を、2015年4月より導入しています。

両立支援ハンドブック

上記「育児短時間勤務制度」「育児・介護休職制度」をはじめ、仕事と家庭の両立を支援する様々な制度について分かり易く説明した冊子を作成し、制度の周知と利用促進に取り組んでいます。



はじめに

環境

CSR

コーポレート
ガバナンス

データ集

ガイドライン対照表

再雇用制度

2006年4月の高齢者雇用安定法の改正以前の1991年7月より、スズキは60歳定年後の再雇用制度を導入しています。60歳定年以降も意欲と能力のある従業員への活躍の場を提供しており、各職場でその豊富な経験や専門能力を活かした業務を担当していただいています。

相談窓口等

職場内での人事上の問題や安全衛生・メンタルヘルスに関する相談に特化した相談窓口として、「人事部・総務部 相談窓口」を開設しています。さらに、これらの相談窓口に加え、食堂や事務棟等に「改善提案箱」を設置し、より一層、相談・提案が行いやすい風通しの良い職場づくりを目指しています。

また、精神科医・臨床心理士による『心の相談室』も開設しています。

少子化対策

ますます進む少子化社会の中で、仕事と育児を両立して頑張っている従業員を積極的に支援しています。

例えば、2008年8月には前述の育児短時間勤務制度を導入し、2015年4月に支給を開始した「子育て支援手当」は、2018年4月に対象となる子供を「6歳まで」から「15歳まで」に拡大しました。

また、日々の育児においては突発的に対応せざるを得ない事もあることから、1年間に40回まで半日有給休暇を使用できるようにしています。

障がい者雇用

人事部内に障がい者雇用の専任担当者を配置し、定期的に個別面談を実施しているほか、職場にも障害者職業生活相談員を置き、障がいを持つ従業員の悩みや問題のケアを行うなど、長く安心して働くことができる環境づくりに取り組んでいます。

● 特例子会社「スズキ・サポート」の事業展開

2005年2月に設立した特例子会社「スズキ・サポート」は、事業をスタートして13年目を迎えました。2018年5月末現在で、重度の知的障がい者を含めた障がい者数は50名となり、指導者と一体となってスズキ本社内事務所、従業員寮、関連施設の清掃業務、社内の文房具管理業務及び農園作業に携わっています。

全員が毎日明るく元気に働く姿は、スズキの従業員からも共感と喜びを持って迎えられています。

スズキでは、スズキ・サポート設立の理念である社会貢献の一環として、障がい者の方々が働くことのできる喜びや社会参加によって人間的成長を感じる事ができるよう、今後も積極的に障がい者雇用に取り組んでいきます。

【株式会社 スズキ・サポートの概要】

- 1.社名 株式会社スズキ・サポート
- 2.資本金 1千万円
- 3.出資者 スズキ株式会社
- 4.所在地 静岡県浜松市南区高塚町300
- 5.設立 2005年2月
- 6.事業内容 清掃業務、農産物の生産業務
- 7.代表者 代表取締役 岡部 孝利
(スズキ(株) 総務部 部長)
- 8.従業員数 84名(うち障がい者50名)



女性活躍推進の取り組み

これまで以上に、女性が能力を発揮しやすく、活躍できる会社となるため、女性活躍推進に関する行動計画書を定めました。この行動計画書に沿って女性採用者数の増加、研修の充実、職場環境や両立支援制度の整備に取り組んでいきます。

スズキ株式会社 行動計画

スズキでは従来より、社員が働きやすい職場づくりとして職場環境の整備を進めてきました。今後更に女性が働きやすい職場づくりを進めるとともに、女性採用者数を増やし、女性社員の活用および活躍を支援していきます。

1.計画期間

2016年4月1日～2020年3月31日

2.当社の課題

スズキでは、女性の採用者数および在籍者数が、男性と比較して少ないため『女性社員を増やすこと』が課題です。その対応の第一段階として、女性の採用者数を増やし、将来のリーダーとして人財育成を図ります。

3.当社の目標

2020年4月度の定期学卒入社者に占める女性比率を25%以上とします。

4.取り組み内容

- 1.女子学生のスズキへの関心を高めるため、採用広報活動を強化します。
 - ・女性社員へのインタビュー記事、動画、スズキの「仕事と家庭の両立支援に関する制度」について紹介する記事を採用HPや入社案内パンフレットへ配信および掲載。
 - ・地元の理系女子中高生を支援するため、理系女子応援プログラムへ参画し、理系女子応援授業や、講演会へ当社女性社員を派遣。
 - ・女性社員による採用支援チームを結成し、会社説明会や採用イベントへ派遣。
 - ・女子学生向けの会社見学会を実施し、女性社員との交流の場を提供。
- 2.女性社員の活躍をバックアップする人財育成を強化します。
 - ・入社年次別研修や階層別研修にてキャリアプラン等を相談できる個別人事面談を実施。
 - ・女性係長を対象に次期リーダーとして必要な知識やスキルを身に付けさせるための研修を実施。
 - ・若手女性社員と社内でも活躍している女性先輩社員との座談会を実施。
- 3.女性社員が更に活躍できる基盤としての制度を拡充します。
 - ・職場復帰に向けた情報提供および育児中の社員同士の交流を図る目的で「育児休職者交流会」を実施。
 - ・今後も仕事と家庭の両立支援に関しては、社員の状況によって柔軟に対応していきます。

ダイバーシティ(人材の多様性)

スズキでは、女性や高齢者、外国人等様々な人財を、部門を問わず活用しています。多様性の更なる促進のため、役職昇進については男性・女性の区別なく、個々の業績や能力等を考慮した上で決定しています。また、外国人についても日本人と同様の基準にて採用しています。

今後も多様な人財が活躍できるよう、働きやすい環境づくりに取り組んでまいります。

| | | 2014年 | 2015年 | 2016年 | 2017年 |
|-------------|---|--------|--------|--------|--------|
| 従業員 | 男 | 13,347 | 13,467 | 13,603 | 13,711 |
| | 女 | 1,404 | 1,465 | 1,535 | 1,558 |
| | 計 | 14,751 | 14,932 | 15,138 | 15,269 |
| 管理職 (内数) | 男 | 921 | 957 | 1,004 | 1,037 |
| | 女 | 5 | 8 | 10 | 12 |
| | 計 | 926 | 965 | 1,014 | 1,049 |
| 障がい者雇用率 | | 2.09% | 2.08% | 2.04% | 2.02% |
| 新規採用 | 男 | 496 | 532 | 674 | 541 |
| | 女 | 75 | 103 | 120 | 101 |
| | 計 | 571 | 635 | 794 | 642 |
| うち 大卒以上 | 男 | 425 | 412 | 523 | 396 |
| | 女 | 37 | 60 | 62 | 60 |
| | 計 | 462 | 472 | 585 | 456 |
| 離職率 | | 4.3% | 4.1% | 3.8% | 4.2% |

社内教育システム

スズキでは、社是に示された理念に基づき、教育担当部門である「スズキ塾」において、階層別教育をはじめとする全社横断的な教育を行うとともに、技術・生産部門などと連携し、業務遂行上必要となる基礎的な知識・技術を習得する職能別（専門）教育を実施しています。

また、各部門においては、より専門的な知識やスキルを学ぶための人財教育を行うと共に、Eラーニングや通信教育、語学セミナー等を通じて社員の能力向上に積極的に取り組んでいます。

階層別教育においては、「若手社員の能力向上」「各階層でのリーダー育成」および「経営層の計画的育成」のための教育を重点的に実施しています。

研修受講人数(スズキグループ)

| | |
|-------|---------|
| 2015年 | 33,300人 |
| 2016年 | 51,100人 |
| 2017年 | 53,600人 |

①若手社員の能力向上研修実施

- ・入社2年目～7年目までの若手社員に対して、毎年入社年次別研修を実施

②経営層を計画的に育成するための選抜研修

- 若手係長対象研修
 - ・会社の経営課題を議論し、経営トップに上申する「係長リーダー研修」
 - ・英語でのコミュニケーションを主とした「グローバルリーダー研修」
- 管理職対象の選抜研修
 - ・経営者として必要な「リーダーシップ」「組織マネジメント」などを学ぶ「経営幹部育成研修」



| 階層 | 集合教育 (Off-JT) | | | 職場内教育 (OJT) | 自主的能力向上 | |
|-------------|--|------------------------------|--|-------------|----------------|-------------------|
| | 階層別教育 | 職能別教育 | | | 自己啓発 | 小集団活動 |
| 管理職 (部長・課長) | 新任部長研修 経営幹部育成研修 ライン部長研修 ライン課長研修 管理職3年目研修 新任管理職研修・新任専門職研修 | 管理職 マネジメント力 向上研修 | | | | |
| 係長 | 係長リーダー研修 グローバルリーダー研修 ライン係長フォロー研修 新任ライン係長研修 係長3年目研修 組長3年目研修 係長2年目研修 新任係長研修 新任組長研修 | 係長 マネジメント 基礎研修 社外研修 | | 専門研修 OJT | 通信教育 語学セミナー | 提案活動 QCCサークル活動 |
| 班長 | チームリーダーフォロー研修 新任チームリーダー研修 班長3年目研修 新任班長研修 | | | | | |
| 一般社員 | 入社7年目研修 入社6年目研修 入社5年目研修 入社4年目研修 入社3年目研修 入社2年目研修 | | | | | |
| 新入社員 | 実習 (生産・製品) 新入社員基礎研修 | | | | | |

はじめに

環境

CSR

コーポレート
ガバナンス

データ集

ガイドライン対照表

労使関係

スズキは、スズキ従業員を代表するスズキ労働組合と、「相互信頼」に基づき、良好な労使関係を築いています。労働組合の目的は、従業員の雇用の安定と働く環境(労働条件)の維持改善にあります。この目的を達成するには、会社の安定的な発展が不可欠です。スズキとスズキ労働組合は、企業活動の成果配分としての給与・賞与・労働時間等に関する交渉では、会社と労働組合という立場で議論しながら、会社を安定的に発展させようとする基本的なベクトルを共有しています。

2017年度末時点の組合員数は16,138名で、管理職や労働協約で定めた非組合員を除いた正規従業員の組織率は100%です。

従業員とのコミュニケーション

スズキは、労使間においても、研究開発・設計・製造・販売等、スズキにおける全ての業務に従業員の声が発見されるように、話し合いの場(労使協議)を数多く設けています。

労使協議会では、労働組合の要求事項(給与・賞与・労働時間等)について話し合うのは勿論のこと、毎月定期的に、経営方針、生産計画・勤務時間、福利厚生、安全衛生等、様々な内容を議論し、お客様に喜んでいただける商品をお届けするために会社は何をなすべきか、従業員(労働組合)は何をなすべきかについて、真剣に意見交換を行っています。

| | 開催頻度 |
|---------|------|
| 中央労使協議会 | 月1回 |
| 支部労使協議会 | 月1回 |

スズキグループの安定した労使関係構築のために

スズキには、国内外131社のグループ企業(製造会社・非製造会社・販売会社)があります。スズキは、131の企業がそれぞれの国・それぞれの地域で、そこに住む人々・社会・お客様から、信頼される企業であり続けたいと考えています。

スズキは、海外企業の労働組合役員と人事労務担当者をスズキに受け入れ、労使間の信頼関係とコミュニケーションの重要性、公平・公正な人事制度の必要性等について研修をしています。また、スズキは、スズキ労働組合とともに、国内外のグループ企業とのグローバルな人材交流を進めることにより、131社約6万5千人の従業員が創造性豊かに活き活きとして働く闊達な職場風土と、安定した労使関係を構築できるよう取り組んでいます。

● マルチ・スズキ・インディア社の取り組み

マルチ・スズキ社では労使協力して会社を発展させるため、話し合いに基づく良好な労使関係の構築に努めています。労働組合と社長、工場長、人事部長ほか管理職とのミーティングを定期的を実施するなど、労使間の相互コミュニケーション強化に継続して取り組んでいます。また、会社と従業員との結束を強めるために、従業員の家族による職場見学会、スポーツ大会、ファミリーデーなど、労使一体となった交流イベントを定期的で開催しています。

マルチ・スズキ社では、インド国内の法令に沿って、独立した労働組合が各工場に組織されています。労働条件の大幅な改定などの重要事項については、労働組合代表との間で十分な協議を行うこととしています。そうした改定は全ての従業員に直接伝えられ、さらに労働組合の代表を通じても伝えられます。

| | 開催頻度 |
|----------------------------------|------|
| 社長と全管理職とのミーティング | 年4回 |
| 社長と労働組合とのミーティング | 月1回 |
| 生産・人事担当役員と従業員(組長・班長・作業員)とのミーティング | 月1回 |
| 人事部長・工場長と労働組合とのミーティング | 週1回 |



労使ミーティングの様子



従業員の家族による職場見学会



ファミリーデー



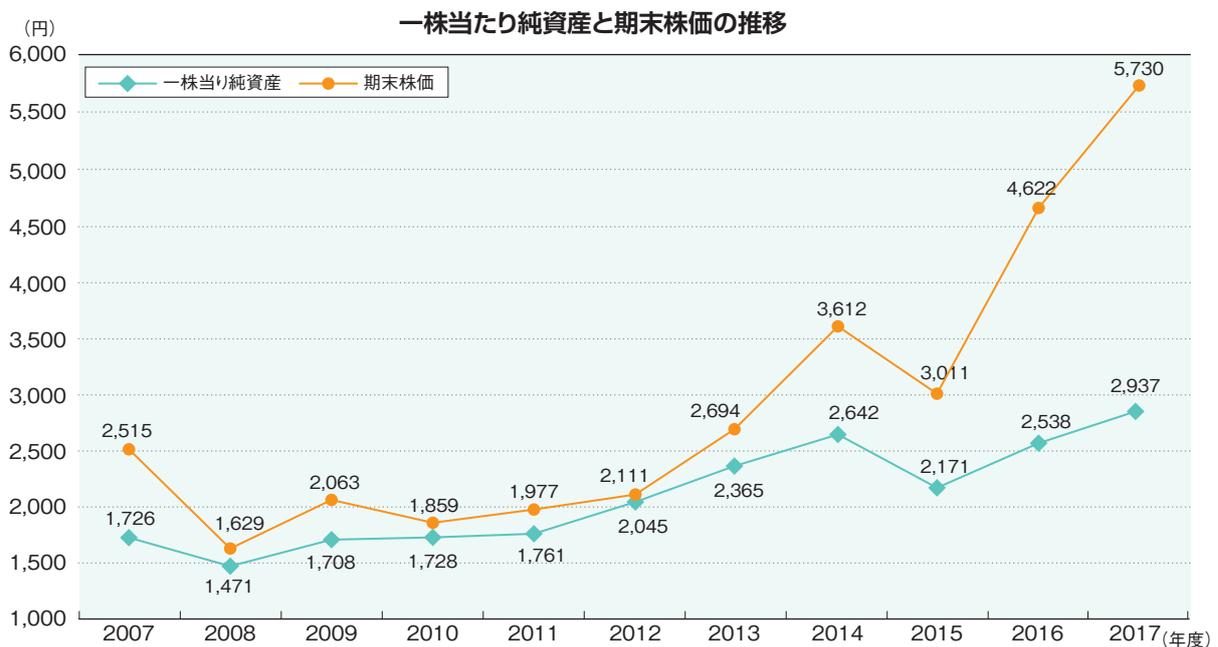
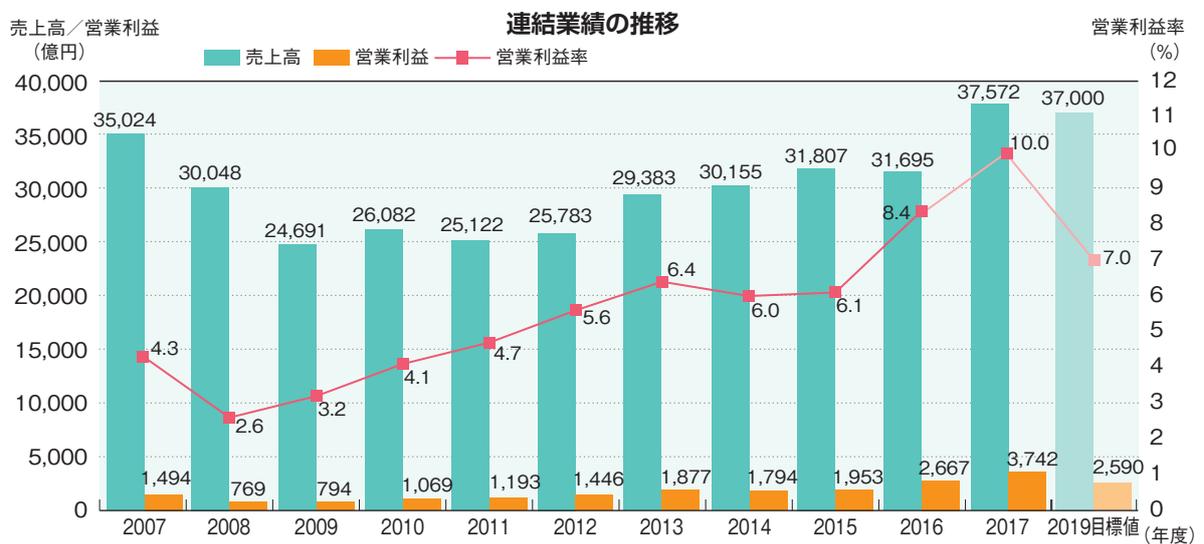
株主・投資家の皆様とともに

企業価値の向上

スズキグループは、2015年からの5ヵ年における「中期経営計画 SUZUKI NEXT 100」を策定し、取り組んでまいりましたが、3年目に当たる2017年度は中期経営計画の目標値である売上高3兆7千億円、営業利益率7%を前倒しで達成することができました。

一方で、自動車産業を取り巻く経営環境は大変革の時代を迎えており、当社におきましても、今後、長期展望に立って、環境・安全などの研究開発、インドを中心とした成長投資の加速が必要になってきております。

引き続き、価値ある製品づくりとサービスのご提供に努め、成長のための投資と経営基盤の強化とのバランスをとりながら、企業価値の向上に向けた取り組みを着実に進めてまいります。



はじめに

環境

CSR

コーポレート
ガバナンス

データ集

ガイドライン対照表

TOPICS

東証「企業価値向上表彰」で優秀賞を受賞

スズキは東京証券取引所(東証)が主催する「第6回企業価値向上表彰」の優秀賞を受賞しました。

「企業価値向上表彰」は、資本コストをはじめとする投資者の視点を強く意識した経営を実践し、企業価値の向上を実現している上場会社を表彰する取り組みです。優秀賞に選ばれた当社は、ROEなどの経営指標を活用し、資本コストを上回る企業価値の創造を目指す「企業価値向上経営」を高いレベルで実践していると認められました。



株主・投資家の皆様のために

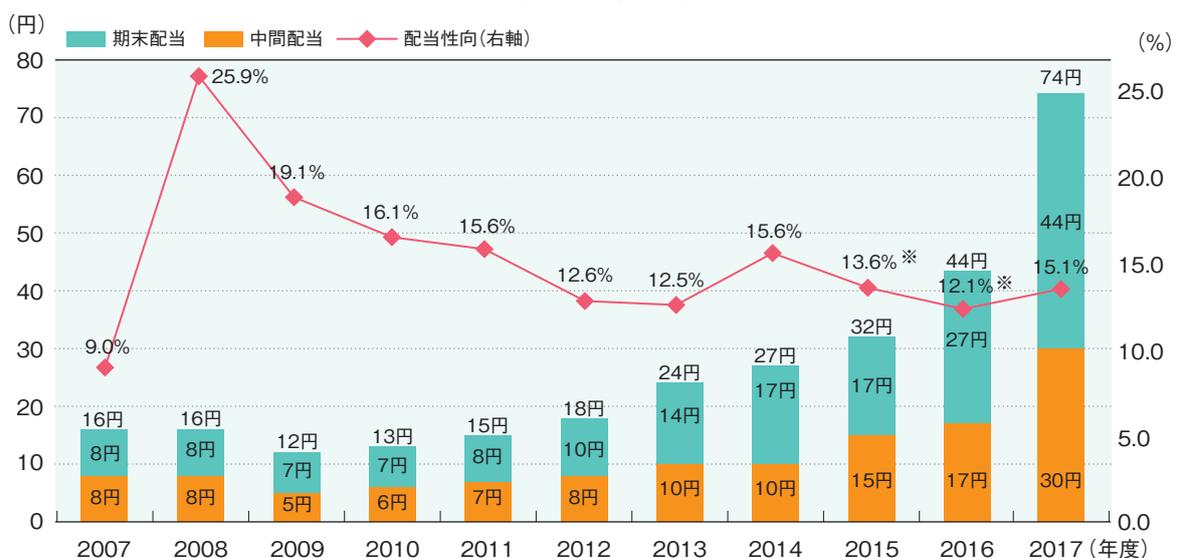
当社グループは「中期経営計画 SUZUKI NEXT 100」(2015~2019年度)において、成長投資を優先することから、配当性向目標を15%以上としています。

当期は2019年度の売上高目標3兆7千億円、営業利益率目標7%を前倒しで達成することができましたが、一方で自己資本比率の改善も引き続き重要な課題となっています。

以上を勘案しました結果、当期の年間配当金につきましては、配当性向目標15%を適用し、前期に比べ1株につき30円増配となる74円、期末配当金は1株につき44円とさせていただきます。1株当たり年間配当金74円は8期連続の増配となります。

なお、スズキの剰余金の配当は、中間配当と期末配当の年2回を基本的な方針としています。スズキは、取締役会の決議によって、毎年9月30日を基準日として中間配当をすることができる旨定款で定めており、配当の決定機関は、中間配当は取締役会、期末配当は株主総会です。

一株当たり配当金の推移



*2015年度、2016年度の配当性向については、投資有価証券売却益を除く当期純利益では15%以上を確保しています。

はじめに

環境

CSR

コーポレート
ガバナンス

データ集

ガイドライン対照表

株主優待制度

スズキでは、株主の皆様の日頃のご支援に感謝するとともに、スズキ製品の一層のご愛用を願ひまして、株主優待制度を実施しております。

株主優待制度は、2005年12月に、スズキの世界戦略車「スイフト」がRJCカー・オブ・ザ・イヤー及び2005-2006日本カー・オブ・ザ・イヤー特別賞「Most Fun」をダブル受賞したことを記念し、スズキファン株主の増加促進を目的に新設したものです。

なお、株主数の推移については、次の通りです。



●対象株主

毎年3月31日現在で1単元(100株)以上を保有の株主様

●優待内容

スズキの欧州生産拠点マジャールスズキ社の所在国ハンガリーの産品である「ハンガリーアカシアはちみつ」と、ドイツ原産の天然のミネラルを豊富にバランスよく含んだ「岩塩」の詰め合わせ



株主優待制度 (ハンガリーアカシアはちみつと岩塩詰め合わせ)

弊社関連会社スズキビジネスにて、これらの商品の通信販売も致しております。

はじめに

環境

CSR

コーポレート
ガバナンス

データ集

ガイドライン対照表

IR[※]に関する取り組み

スズキグループは、従来より、公正かつ効率的な企業活動を旨として、株主各位をはじめ、お客様、お取引先様、地域社会、従業員等の各ステークホルダーから信頼され、かつ国際社会の中でさらなる貢献をし、持続的に発展していく企業でありたいと考えております。ステークホルダーや社会から一層のご信頼をいただけるよう、法令や規制が定める情報の迅速、正確かつ公平な開示を行うほか、当社をよりご理解いただくために有益と判断する情報の積極的な開示にも努め、企業の透明性をさらに高めてまいります。

IR資料のホームページ掲載

スズキホームページでは、投資家向け決算説明会資料をはじめ、投資判断に必要な企業情報・資料をIR情報として掲載 (<http://www.suzuki.co.jp/ir/index.html>) しています。

同サイトにて、当社のディスクロージャーの基本的な考え方、適時開示に係る社内体制、株主との建設的な対話等について「ディスクロージャーポリシー」を開示しています。 (<http://www.suzuki.co.jp/ir/home/pdf/disclosurepolicy.pdf>)

2017年度は「ESG情報」の記載を充実させ、関連情報の検索性を高めるインデックスを追加しました。

The screenshot displays the Suzuki IR website interface. At the top, there is a navigation bar with the Suzuki logo and 'IR情報' (IR Information). Below this, a secondary navigation bar lists various sections: IR情報トップ, IRニュース, IRライブラリー, 株式・社債・格付情報, 財務ハイライト, IRカレンダー, and よくあるご質問. The main content area features a large aerial photograph of a Suzuki factory in India, with the caption 'インド スズキ・モーター・グジャラート社 グジャラート工場'. Below the photo is a horizontal menu with 'IRニュース', 'IRライブラリー', '株式・社債・格付情報', and 'ESG情報'. The 'IRニュース' section is expanded, showing two news items from June 2018 and May 2018. To the right, there are several quick links: 'トップメッセージ' (with a photo of the CEO), 'IRライブラリー', '株式・社債・格付情報', '財務ハイライト', '電子公告', 'IRカレンダー', and 'よくあるご質問'. At the bottom, there are links for 'PDF ディスクロージャーポリシー' and 'PDF IRサイトに関する各書要旨'.

※IR(インベスター・リレーションズ)とは、企業が株主・投資家の皆様に対し、投資判断に必要な企業情報を、適時、公平、継続して提供する活動のことをいいます。

はじめに

環境

CSR

コーポレート
ガバナンス

データ集

ガイドライン対照表

アナリスト、機関投資家向けに定期的説明会を開催

四半期毎に、決算アナリスト説明会を開催しています。なお、株主・投資家の皆様にその内容をお聴きいただけるよう、音声ファイル及び説明会における主な質疑応答内容をホームページに掲載しています。

その他にも、インベスターズ・カンファレンス等の説明会の実施、国内外でのIRミーティングの開催、新車発表会へのアナリストの招聘、アナリスト向け工場見学会、技術説明会等も随時、実施しています。

IRに関する部署の設置

IRに関する部署については、経営企画室に、本社でのIR窓口として経営管理・IR部、及び東京でのIR窓口として東京IR課を設置しています。また、決算短信等の開示資料作成部門として財務本部に財務部経理課を設置しています。

海外投資家向けIR

海外投資家向けに以下のIR活動を実施しています。

- 海外投資家向けIR情報のホームページへの掲載

国内投資家向けに開示している決算短信、投資家向け説明会用プレゼンテーション資料、株主総会招集通知、株主総会決議通知、東証適時開示文、IRニュースなど、日本語IRページと同等の情報を英語にて掲載 (<http://www.globalsuzuki.com/ir/index.html>) しています。

- 国内で開催される海外投資家向けIRカンファレンス等への参加

- 「東証英文資料配信サービス」での決算短信及び適時開示の英文提供

個人向けのIRイベントの実施

証券会社と共同で、担当役員もしくはIR担当者による個人投資家向け説明会を定期的に開催しています。その他、証券会社の営業社員向け説明会についても随時、実施しています。

また、2008年6月に開催した第142回定時株主総会より、総会終了後に、ご出席いただいた株主様を対象に、よりスズキのをご理解していただくため、『スズキ歴史館』の見学会を開催しています。『スズキ歴史館』は「スズキのものづくり」をテーマに、スズキの歴史や現在の世界への事業展開の紹介、また、自動車ができるまでの工程をわかりやすく展示する施設で、2009年4月から一般公開しています。



スズキ歴史館外観



スズキ歴史館見学会

はじめに

環境

CSR

コーポレート
ガバナンス

データ集

ガイドライン対照表



地域社会とともに

環境美化への取り組み

はまなこ環境ネットワークへの参加・協力

スズキは、社員とその家族の環境教育の一環として、2005年の「はまなこ環境ネットワーク」設立以来、ネットワークへの積極的な参加・協力を行っています。

「はまなこ環境ネットワーク」は静岡県環境局の委託を受け、浜名湖の環境保全に関する教育プログラムの実施やアマモ・アオサの再利用プロジェクト、地域環境の情報発信などの活動を活発に続けており、市民グループや学校、NPO法人、各種事業団体や企業など72団体(2017年3月現在)が登録している浜名湖の環境保全に関わる「集まりの場」となっています。

「はまなこ環境ネットワーク」は、毎年市民参加型の環境イベントを開催しています。2017年度は子供から大人まで幅広い層の方を対象にした環境学習会「はまなこ環境カレッジ」や、自然のアマモ堆肥を使った「野菜づくり体験」が開催され、スズキ社員とその家族が延べ98名参加しました。

今後も、ひとりでも多くの方が座学や観察・清掃・農作業などの体験を通して、地元の貴重な財産である汽水湖「浜名湖」の豊かな自然を認識いただけるよう、スズキは環境教育や保全活動に参加・協力していきます。

●「はまなこ環境カレッジ2017in弁天島」(2017年8月5日)

浜名湖いかり瀬にて ●浅瀬の生き物とアマモ場観察



●「竹を親しむ体験会in井伊谷」(2017年8月20日)

浜松市北区井伊谷「正泉寺」竹林にて ●竹の講座 ●竹細工体験 ●竹林の伐採体験



はじめに

環境

CSR

コーポレート
ガバナンス

データ集

ガイドライン対照表

●「アマモを堆肥にした野菜づくり体験」(2017年9月25日)

村檜町NPO法人むらちゃネットさんの畑にて ●畑づくりと野菜の種まき作業



●「アマモを堆肥にした野菜づくり体験」(2017年12月23日)

村檜町NPO法人むらちゃネットさんの畑にて ●大根の収穫作業



●「はまなご環境カレッジ2017in湖西」(2017年10月21日)

おちばの里親水公園にて ●里山や川の生き物観察 ●倒木を利用した調理 ●今川の水質検査



はじめに

環境

CSR

コーポレート
ガバナンス

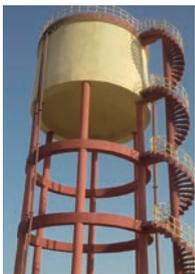
データ集

ガイドライン対照表

地域社会への支援活動

2017年度、スズキグループでは地域社会に対して以下の支援をいたしました。

| | | | |
|-------|--------------------|----------------|---|
| 日本 | スズキ | 九州北部豪雨災害に対する支援 | 被災した福岡県、大分県への支援として、日本赤十字社を通じて合計200万円(各県に100万円)の義援金の寄付 |
| | | 震災対策事業支援 | 地元自治体4市(磐田市、牧之原市、掛川市、袋井市)の地震津波対策事業へ合計4,000万円を寄付(累計総額8億1,000万円) |
| インド | マルチ・スズキ・ インディア社 | 水道整備・公衆衛生 | 自己持続型プロジェクトとして給水器を10カ所に設置、1,000mに渡る水道管の設置、1,200戸の家庭用トイレ設置、16kmに渡る下水道の設置など |
| | | 政府系学校のインフラ整備支援 | 男女別トイレの設置、教室の建設、水道タンクの建設、奨学金の提供など |
| | | 地方支援 | コミュニティーホールの設置、火葬場の修繕、10kmに渡る舗装道路の建設、ソーラー式街路灯の設置250カ所など |
| パキスタン | パックスズキ社 | 学校図書館設置 | 公立学校に書籍のほか、本棚、椅子、テーブルを寄贈し、学校図書館を設立 |
| | | 道路標識の設置 | 同社の地域事務所が所在するムルタン市内に速度制限、ヘルメット・シートベルト着用を促す標識など43の安全標識を設置 |



マルチ・スズキ社による地域支援活動

教育支援活動

地元の学生にスズキのものづくりを紹介

地元の大学へ、スズキから講師を派遣し、人材の育成及び研究の活性化等を行う「スズキ寄附講座」や学生に産業界の現状を紹介する「スズキ冠講座」を開講しています。

●寄附講座

スズキは、静岡大学(工学部)において、2003年度から、研究者育成及び学術振興・社会貢献等を目的として、自動車の様々な要素技術研究に取り組む寄附講座を開講しています。

講座名称を「先進車両エネルギー工学」として、環境性能の高い先進車両の実現を目指した研究に取り組んでおります。

研究室では、「ものづくり」と「実験」、「解析」の一貫した研究を行っています。

また、機械系学生3年生を対象とした「自動車工学」では、実際の自動車部品を見ながら、その部品の機能や材料、製造方法、最新技術についても紹介するなど、企業ならではの教育を展開しています。

新講座名称：「先進車両エネルギー工学」スズキ寄附講座

研究テーマ：①リーンNOx触媒の性能向上に関する研究

②モータ用磁石の温度推定に関する研究

講師：スズキから社員2名を特任教官として派遣

期間：2003年4月～2021年3月末までの18年間

●冠講座

静岡産業大学(磐田キャンパス)・常葉大学(浜松キャンパス)の2校において、学生に産業界の現状や問題への取り組み方を紹介する冠講座を開講しています。

・2017年度講座テーマ：次の100年に向かう土台作りのため、「チームスズキ」と「ものづくりの強化」を目指すスズキの取り組み

・講師：テーマに応じ、各職場から大学に派遣

・講義回数：1回90～100分授業を毎年14～15講座実施



はじめに

環境

CSR

コーポレート
ガバナンス

データ集

ガイドライン対照表

学生フォーミュラ大会

公益社団法人自動車技術会が主催する「第15回全日本学生フォーミュラ大会」が2017年9月5日～9日にかけて静岡県小笠山総合運動公園(エコパ)で開催されました。

学生フォーミュラ大会は学生が設計製作した車両により、ものづくりの総合力を競い合い、産学官民連携による自動車技術ならびに産業の振興に資する人材の育成を趣旨として開催されています。

自動車技術会に所属するスズキも大会運営への協力や参加チーム支援を行っており、第15回大会では国内74チーム、海外24チームの計98チーム中、スズキが支援する京都工芸繊維大学が前年に続き、ガソリンエンジン車クラス(ICV)で総合優勝しました。



キッズエンジニア

公益社団法人自動車技術会が主催する体験型イベント「キッズエンジニア2017」が2017年8月4日、5日に開催されました。

スズキでは小学1年生から6年生を対象に、ものづくりの楽しさを感じてもらうため、スクーター・チョイノリのエンジンを自分で分解・組立てしながらエンジンについて学ぶ教室を提供しました。



ものづくり講座

国内外の大学や地域企業向けに、スズキ歴史館や工場などで「輸送機器のものづくり講座」を行っています。2017年度は右記の通り実施しました。



7/13名古屋大学サマープログラム(NUSIP)



6/6中核人材育成講座(スズキ歴史館見学)

| | 開催日 | 大学、講座名 | 参加人数 |
|--------|---------------------------------|---|------|
| 2017年 | 4月7日 | 東京都市大学 | 150 |
| | 4月19日 | 科学技術振興機構(JST)「さくらサイエンス・ハイスクールプログラム」企業訪問 | 100 |
| | 5月26日 | 外務省 対日理解促進交流プログラム「JENESYS2016」 | 8 |
| | 5月31日 | 浜松地域イノベーション推進機構 | 30 |
| | 6月6日 | 中核人材育成講座 | |
| | 7月13日 | 名古屋大学サマープログラム(NUSIP) | 45 |
| | 7月26日 | 浜松地域イノベーション推進機構 中核人材育成講座 | 30 |
| | 8月29日 | 政策研究大学院大学 | 17 |
| | 8月30日 | | |
| | 9月7日 | カナダ オンタリオ工科大学 | 9 |
| | 9月21日 | 早稲田大学 | 56 |
| | 9月28日 | 静岡大学アジアブリッジプログラム 企業体験 | 9 |
| | 9月29日 | | |
| 9月29日 | 静岡大学 キャリアデザイン研修 静岡大学工学部 工場見学 | 45 45 | |
| 11月21日 | 静岡大学・タイ カサセート大学 | 25 | |
| 11月29日 | 浜松中部学園企業体験 | 6 | |
| 2018年 | 1月16日 | 静岡大学アジアブリッジプログラム 特別講義 | 29 |
| | 1月19日 | | |
| | 1月26日 | 科学技術振興機構(JST)「さくらサイエンス」 企業訪問 | 10 |
| | 2月16日 | 静岡文化芸術大学 グローバルキャリアデザイン講座 | 17 |
| | 3月27日 | 静岡大学「理系女子 夢みっけ 応援プロジェクトinしずおか」 | 10 |
| | | 合計 | 641 |

はじめに

環境

CSR

コーポレート
ガバナンス

データ集

ガイドライン対照表

陸上教室

スズキ浜松アスリートクラブは、オリンピックや世界陸上など国際大会で活躍できる選手の育成を目指し活動し、2004年のアテネオリンピックから2016年のリオデジャネイロオリンピックまで4大会連続で日本代表選手を輩出しています。

中村明彦選手(男子10種競技・リオ五輪日本代表)、新井涼平選手(男子やり投げ・リオ五輪日本代表)などオリンピックを中心に国内外で活躍するトップアスリートたちは、様々な地域で行われる陸上教室や講演会に協力し、自身の経験を踏まえ、日本の陸上競技の普及と発展、児童の体力向上に寄与しています。

今後もスズキ浜松アスリートクラブでは陸上競技の楽しさや、スポーツを通して得られる感動や夢を子供たちに伝える活動を続けてまいります。



はじめに

環境

CSR

コーポレート
ガバナンス

データ集

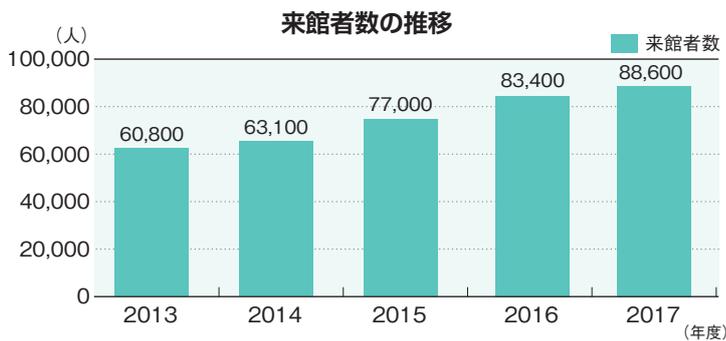
ガイドライン対照表

スズキ歴史館 [\(https://www.suzuki-rekishikan.jp/\)](https://www.suzuki-rekishikan.jp/)

スズキは、1909(明治42)年に創業、1920(大正9)年に織機メーカーとして設立して以来、「価値ある製品を」の言葉のもとに、常にお客様の立場に立った「ものづくり」に情熱を注いできました。世界各国で生産・販売する今日でも、「ものづくり」にける情熱は変わりません。

スズキ歴史館は、2009年4月に開館したスズキの“歴史”や“ものづくり”を紹介する展示施設です。織機・二輪車・四輪車・船外機など、時代とともに歩んできた創業以来の多くの製品と、現在のクルマづくりの様子が展示されています。

開館以来、約60万人のお客様にご来館いただいています。



スズキ歴史館

スズキ歴史館の施設ご紹介

スズキの歴史フロア

1909年の織機から始まるスズキの歴史、二輪分野に進出した1952年発売のバイクモーター「パワーフリー号」、量産型軽自動車として日本初となる1955年発売の「スズライト」、1970年発売の「初代ジムニー」(LJ10型)、1979年に47万円で発売された「初代アルト」など、懐かしいクルマを趣向をこらした演出で見ることができます。



創業当時の織機



パワーフリー号



スズライト

スズキのものづくりフロア

現在のクルマづくりをテーマに、新しいクルマが誕生するまでの企画・開発から生産・販売までの過程を、順を追って展示しています。

スズキのクルマが工場でどのようにつくられていくかを迫力のある3Dシアター「ファクトリーアドベンチャー」で見ることができます。さらに、実物大の組立ラインの展示もあり、クルマの製造現場を疑似体験できます。

工場で活躍するロボット、スズキの海外でのものづくりを紹介する映画「ワールドアドベンチャー」、地元・遠州地方を紹介するコーナーなど、多彩な仕掛けで、マニアだけでなくクルマに興味を持ち出す年頃の子供たちにとっても楽しめる施設となっています。



デザインルーム



組立ライン



遠州コーナー

はじめに

環境

CSR

コーポレート
ガバナンス

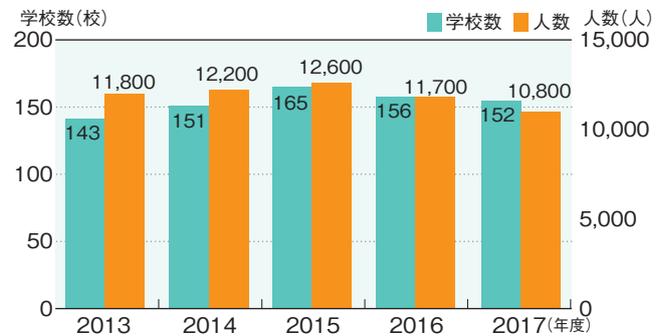
データ集

ガイドライン対照表

社会科見学

スズキ歴史館は、自動車産業についての理解を深める小学校の校外学習の場として、多くの小学校にご活用いただいています。実際のスズキの生産現場を見学する「工場見学」と、クルマを生産する前の開発プロセスを紹介するスズキ歴史館を併せて見学することで、クルマができる工程を詳しく学習することができます。

社会科見学の推移



社会科見学の様子

ものづくりイベント

地域社会との交流の場として、“ものづくり”に対する興味を持ってもらうために子供向けイベントを実施しています。スズキの“歴史”や“ものづくり”にちなんだ体験学習を内容とし、子供たちには教科書での勉強とは違ったかたちで楽しんでいただいています。



ものづくりイベントの様子

スズキ歴史館では、子供たちの“ものづくり”に対する興味を育むためにこれからも継続してこのようなイベントを開催していきたいと考えています。また、多くの小学校の社会科見学を受け入れることで子供たちに自動車産業について知識を深めてもらいたいと考えています。そして、地域の皆様から喜ばれる施設となるよう努力を続けていきます。

はじめに

環境

CSR

コーポレート
ガバナンス

データ集

ガイドライン対照表



国内工場・技術センターの取り組み

湖西工場の取り組み

●小学生の湖西工場見学会

2017年度、社会科校外学習の一環として、静岡県下122校(小学5年生対象)、延べ8,900人の児童を、湖西工場見学会として受け入れました。

この見学会では、「スズキの車が出来るまで」のビデオを放映し、組立工場と風力発電設備等を見学していただき、流れ作業の仕組みや環境に配慮したクルマ作りを紹介しました。



●工場秋祭りの開催

従業員とその家族及び地域住民の方々と親睦を図るために、2017年9月9日に秋祭りを開催しました。約3,700の方が参加し大いに盛り上がりしました。

地域の皆様にも、自治会の手踊りや中学校の音楽部演奏会等で参加していただきました。

この他に各種模擬店、キャラクターショー、舞台からの餅投げ等を行い楽しい秋祭りになりました。



●地元自治会との交流会

情報交換することにより、地元の皆様との間により深い相互理解が得られるものと考え、年1回、地元自治会との交流会(湖西工場見学会)を開催しました。この交流会では、湖西工場の概要の説明を行ない、生産ラインの他、焼却施設を見学していただきました。



●湖西工場周辺道路の5S活動

環境保全活動の一環として、スズキは構内協力企業の皆様とともに、年3回、延べ150人で周辺道路の清掃活動を行いました。また、環境意識の向上を図るため、従業員や納入業者に対して「ポイ捨て禁止」の呼び掛け等も行いました。



●湖西工場周辺地区の街頭指導

従業員の通勤路や工場周辺交差点において、シートベルトの着用、交差点における運転マナーの向上や交通事故防止を目的として街頭指導を行っています。

2017年度は延べ600人の従業員が街頭で行い、安全で安心な街づくりに協力しました。



●浜名湖クリーン作戦への参加

「浜名湖の水をきれいにする会」主催の浜名湖クリーン作戦で白須賀海岸の清掃活動に参加しました。

2017年度は、労働組合湖西支部を通じて91人が取り組みました。



はじめに

環境

CSR

コーポレート
ガバナンス

データ集

ガイドライン対照表

磐田工場の取り組み

●工場周辺の清掃活動

工場周辺の環境美化を目的として、月に1回、構内協力企業の皆様と共に工場周辺のゴミ拾い活動「クリーン作戦」を実施しています。

また、全市一斉「環境美化の日」に、地元自治会の皆様と一緒に地域美化活動に参加し、工場周辺の環境保全に取り組んでいます。



●工場見学受け入れ

主に地元学校の社会科校外学習の一環として、工場見学の受け入れを行っています。

2017年度は19校378名が工場見学に訪れました。工場について概要説明を行い、溶接工場と組立工場で実際の現場での作業を見学していただきました。

見学を通じて、仕事の様子や生産面で工夫している点など、生産の流れ等を学習する実践的な場として活用されています。



●地元の皆様との交流会活動

「地域と共に発展する」を目指し、スズキの環境への取り組み等に関して、地域の方々との相互コミュニケーションを図る情報交換会を毎年実施しています。

地元自治会役員及び有志の方々を招いて工場見学を行い、スズキの事業内容や環境への取り組み等について幅広く意見交換を行っています。

また、3ヶ月に1回、磐田工場の環境対策の状況を地元自治会に公表し、相互理解を深めています。



●交通安全街頭指導の実施

従業員の交通安全に関する意識向上、交通ルール遵守、交通マナー向上のため、工場周辺で社内交通安全部会員による街頭指導を定期的実施しています。



●工場秋祭りの開催

従業員やその家族、地域住民の方々との親睦を図るため、2017年10月28日に秋祭りを開催し、約1,500人の方にご来場いただきました。

地元自治会の皆様による御殿屋台引き回しを始め、子供神楽披露や、芸能人による物真似ショー、従業員企画イベント(綱引き大会、金魚すくい)、各種模擬店、餅投げ大会等により、大いに盛り上がりました。



●地下水かん養事業への参加

植樹や間伐による森林保全活動を目的として、毎年開催される、中遠地域地下水利用対策協議会と磐田市環境保全協議会共催の地下水かん養事業に参加しています。他企業の方々と共に植樹や間伐による森林保全活動に取り組んでいます。



はじめに

環境

CSR

コーポレート
ガバナンス

データ集

ガイドライン対照表

相良工場の取り組み

●工場周辺の清掃活動

地域環境維持活動として年3回、関係会社の皆様と共に、工場周辺の清掃を実施しています。2017年度は113名が参加しました。

また、従業員への環境教育や、取引先へ協力依頼を実施し、環境保全活動を推進しています。



●地元の皆様との交流活動

毎年2月にスズキの事業内容や環境への取り組み等に関して、地元の皆様との相互コミュニケーションを図る情報交換会を実施しております。

2017年度は2018年2月に実施し、地元の代表者、牧之原市担当者など16名の方々にご参加いただきました。



●工場秋祭りの開催

従業員やその家族、地域の住民の方々との親睦を図るため、2017年10月28日に秋祭りを開催しました。約3,700人の方々にご来場いただき、地元中校生の演奏会や地元商工会による軽トラ市、模擬店、キャラクターショー、子供ビンゴ大会等で大いに盛り上がりました。



●工業用水の節水活動

相良工場で使用している工業用水の水源は大井川となっています。

大井川水系からの大切な水資源をムダに消費させないため、工業用水の節水に取り組んでいます。2017年4月から2018年3月までの節水活動で工業用水105,000m³/年を節約することができました。



●工場見学の受入

主に地元学校の社会科見学の一貫として、工場見学の受入を実施しています。

2017年度は78校・4,878名が工場見学に訪れました。工場内のプレス・溶接工程及び組立工程の生産現場見学及び工場概要説明等を通じて、安全や生産面で工夫している点、生産の流れ等を学習する実践的な場として活用されています。



●交通安全への取り組み

自動車学校での交通安全教育や街頭での立哨などを通じ、自動車メーカー従業員として地域の方々の模範となるべく交通法規・マナー遵守を指導しています。



はじめに

環境

CSR

コーポレート
ガバナンス

データ集

ガイドライン対照表

高塚工場の取り組み

● 地元の皆様との交流活動

2017年7月5日、スズキの事業内容や環境への取り組みについて理解していただくとともに相互のコミュニケーションアップを目指して、近隣自治会役員の皆様と交流会(意見交換・工場見学)を行いました。



● 工場周辺の清掃活動

年2回、従業員のボランティアにより工場周辺の清掃活動(高塚工場マナーアップ活動)を行いました。

この活動では、近隣住民の皆様と挨拶を交わす等、コミュニケーションの向上も図れました。



● 工場西側の騒音監視活動

工場の騒音状況を確認する為、2017年度に4回、工場西側地域において監視活動(「早朝・夜間パトロール」)を行いました。

6:00~7:00の騒音規制値:65dB以下に対し、46.1~58.3dB

22:00~23:00の騒音規制値:60dB以下に対し、41.0~58.9dB

計測器による騒音の確認と併せて、聴覚による騒音の確認を行い、いずれも問題の無いことを確認しました。この活動により、近隣住民の皆様の騒音に関する生活環境の保護に努めています。



● 交通安全街頭指導の実施

月1回、管理職による工場周辺の街頭指導を実施しています。従業員の運転マナーの向上と交通事故の防止を目的として通勤時及び退勤時の呼びかけを行っています。



はじめに

環境

CSR

コーポレート
ガバナンス

データ集

ガイドライン対照表

豊川工場の取り組み

●「豊川市清掃の日」の環境活動協力

5月と9月の年2回、豊川市清掃の日に合わせて工場外周のゴミ拾い清掃活動を行っています。約30名が参加協力し、環境活動として取り組んでいます。



●地域交流会

毎年6月に工場に隣接する地域の区役員を招き、交流会を開催しています。スズキの環境への取り組み等を説明して相互の交流を深めると共に、工場内の設備を見学していただき、日頃の取り組みについて情報交換を実施しました。



●交通安全街頭指導への参加

従業員の運転マナーの向上及び、交通事故防止の目的として役職者が定期的に工場周辺の交差点で街頭指導を実施しています。

●地域の学校の職業体験受け入れ

校外学習として、職業体験の受け入れを行いました。体験を通じて職業観・勤労観、職業に関する知識や技能を身につけることで、能力、責任感を養い、自己の向上に役立てていただきました。2017年度は、高校1件の職業体験を実施しました。

●工場秋祭りの開催

祭りを行なう事で、従業員、家族、工場近隣地域の方々と親睦・交流を深め、スズキとしての社会的責任を果たしています。

毎年、工場内を会場として開催しており、2017年9月30日は、約2,215名の来場者をいただき、地元高校のマーチングバンド、地元和太鼓保存会によるステージ演奏、子供向けで人気のある『キャラクターショー』で盛り上がりました。

また、従業員による各種模擬店、大抽選会、餅投げ大会で楽しい秋祭りとなりました。



はじめに

環境

CSR

コーポレート
ガバナンス

データ集

ガイドライン対照表

大須賀工場での取り組み

●工場敷地外の清掃活動

毎年2回、工場敷地外の道路・河川等の清掃活動を行っています。
2018年度も、地元の皆様と共に、環境保全活動に取り組んでいきます。



●地元神社大祭終了後の清掃活動

毎年4月に、三熊野神社大祭終了後、神社周辺の清掃活動を実施しています。
2018年度も、新入社員を中心に、神社周辺の清掃活動を行いました。
地域に根付いた恒例行事として定着しており、今後も継続していきます。



●地元の皆様との交流活動(自治会懇談会)

毎年1回、近隣自治会の皆様を工場に招いて、工場見学及び懇談会を行っています。
2017年度は、7自治会の皆様にご出席いただき、10月25日に開催しました。
懇談会においては、工場の環境に関する取り組み、清掃活動等の報告・情報交換を行い
地元の皆様と相互理解を深めました。



●地元の皆様との交流活動(秋祭り実施)

2017年9月9日に、地元の皆様との親睦を深める秋祭りを開催しました。
当日は、1,800名の来場がありました。

〈地元の皆様の出演〉

- ・横須賀小学校 いきわくジュニアプラスバンドクラブ
- ・大須賀中学校 いきわく吹奏楽部
- ・横須賀高校 郷土芸能部 「三社祭礼囃子」
- ・すみれの会 オカリナ演奏



●交通安全への取り組み

毎月10日、20日、30日に、工場正門前で立哨指導を行い、従業員の運転マナー向上・交通
ルールの遵守と正しい交通マナーを実践する活動をしています。

また、年4回の全国交通安全運動期間中は、地元の皆様と共に、街頭指導に参加し交通
事故防止活動に協力しています。



●地元中学校の工場見学会

地元、大須賀中学校からの依頼を受け、第1学年の生徒約100名を対象に2017年9月5
日に工場見学会を実施しました。

製造工程の見学・完成車の展示の他、地元の皆様との交流や、環境に関する取り組みに
ついて事例を交えて説明しました。



はじめに

環境

CSR

コーポレート
ガバナンス

データ集

ガイドライン対照表

二輪技術センター(竜洋コース)の取り組み

●スポーツ競技大会への二輪技術センター(竜洋コース)の開放

2017年度、地域のスポーツ団体の要望によりスズキ二輪技術センター(竜洋コース)を下記のように開放しました。

- ① サンライズ イワタ IN 竜洋大会(トライアスロン競技)
- ② トライアスロン協会(自転車強化練習)
- ③ 静岡県ふじのくにカップ(自転車競技)
- ④ 磐田市駅伝競走会

社会人から小・中学生まで、幅広く竜洋コースを開放し、地域スポーツ団体や青少年の健全育成活動に貢献しています。



2017年10月 サンライズ イワタ
IN 竜洋大会



2018年3月 静岡県ふじのくにカップ

マリン技術センターの取り組み

●マリン技術センター周辺の交通安全街頭指導

マリン技術センターでは、春、夏、秋、年末の年4回の交通安全運動期間の稼働日の朝、センター入り口と近くの交差点で屋外立哨指導を行っています。

2017年で9年目になるこの活動は従業員と近隣の皆様の交通安全と交通安全意識の向上を願い、行っています。



秋の立哨指導

●マリン技術センターマナーアップ活動

マリン技術センターでは「マリン技術センター マナーアップ活動」として地域への貢献及びボランティア・環境美化を目的とし、マリン技術センター周辺のゴミ拾いを実施しています。2017年度は5月31日に実施しました。



はじめに

環境

CSR

コーポレート
ガバナンス

データ集

ガイドライン対照表



国内販売代理店の取り組み

スズキの国内販売代理店は、お客様や地域社会との信頼を大切に、長くお付き合いをさせていただきたいと考えています。商品・サービスの情報提供をはじめ、福祉支援、イベントへの参加や協力等を行い、コミュニケーション活動を進めています。また、提供する商品やサービスについてお客さまに満足していただくため、従業員の教育にも努めています。

また、環境面においても、地球温暖化の抑制に向け、節電や省エネ設備の導入などによる省エネ活動を積極的に推進することを各社共通の目標に掲げ、「LED証明の導入」「空調機器の効率的な運転・節電」「工場・事務所、屋外灯の節電」など、CO2削減に向けた活動をすすめています。

取り組み事例紹介の国内販売会社



(株)スズキ自販千葉 <http://sj-chiba.jp>

●整備工場の環境配慮

スズキアリーナ山王とスズキアリーナ千葉ニュータウンが、使用済み自動車の適正処理やフロンなどの適切な回収など、環境問題に積極的に取り組んでいる「環境に優しい自動車整備工場」として、関東運輸局千葉運輸支局より認定を受けました。



(株)スズキ自販長野 <http://sj-nagano.jp>

●地域の環境美化活動

スズキアリーナ信州長野中央店では、店舗の前を通る国道18号において、約30年にわたりほぼ毎日、歩道の清掃及び植樹帯の除草を実施しています。その活動が認められ、国土交通省が実施する「道路ふれあい月間」で長野国道事業所長表彰を受けました。



はじめに

環境

CSR

コーポレート
ガバナンス

データ集

ガイドライン対照表

(株)スズキ自販富山 <http://sj-toyama.jp/>**●技術専門学校に故障診断機を寄贈**

整備士の人材育成を応援するため、富山県技術専門学院と富山自動車専門学校の2校に、スズキ純正の故障診断機をそれぞれ寄贈しました。教材に使われる現在の自動車には電子制御機構が多く採用されており、最新の設備を講義や実習に採り入れることで、より実践的な整備技能が習得できるようサポートしています。

**(株)スズキ自販近畿** <http://sj-kinki.jp/>**●新型ハイブリッド車を使った講習会**

2017年7月、大阪府自動車整備振興会が自動車整備の知識や技術の向上を促進するために開催する「次世代自動車勉強会」に、当社は講師として参加しました。「新型ソリオハイブリッド」をテーマに、システムの概要・構造・機能や整備時の注意点などを説明させていただき、その後は実車を用いた構成部品の確認や試乗体験などを行いました。

**(株)スズキ自販和歌山** <http://sj-wakayama.jp/>**●障がい者インターンシップの受け入れ**

地域の中高生の校外学習や職業体験の場として、また障がいを持つ方々の就業を支援するため、当社ではインターンシップを実施しています。商品の洗車や部品の出庫作業など自動車販売会社の様々な仕事を体験していただき、2017年度は合計19名を受け入れました。

**(株)スズキ自販徳島** <http://sj-tokushima.jp/>**●安全運転講習会の実施**

2017年11月、美馬市木屋平地区で電動車いす安全運転講習会を実施しました。電動車いす使用者の方にはコースの走行、電動車いすをお使いでない方には実車を使って操作方法の説明を行った後でコースを体験走行していただき、安全運転と事故防止について理解を深めていただきました。

**(株)スズキ自販鹿児島** <http://sj-kagoshima.jp/>**●安全運転サポート車を使った研修会の実施**

2018年2月、高齢者事故の低減を目指す鹿児島県警からの依頼で、警察官を対象とした「安全運転サポート車」と「セニアカー」を体験する研修会を実施しました。約100名の警察官にご参加いただき、四輪車の衝突被害軽減ブレーキや誤発進抑制機能をはじめ、日ごろ触れる機会の少ないセニアカーの試乗体験をしていただくことで、県民の皆様の交通安全に役立てるよう協力しました。



はじめに

環境

CSR

コーポレート
ガバナンス

データ集

ガイドライン対照表

(株)スズキ自販沖縄 <http://sj-okinawa.jp/>

●清掃活動・緑地保全活動の実施

毎月第3木曜日を「捨て曜日」として、全ての営業所内の整理・整頓・清掃をする活動からスタートし、現在では営業所周辺の歩道・緑地帯のゴミ拾いや雑草むしりまで範囲を広げ、スタッフ全員参加で清掃活動を行っています。特にコザ営業所は県有地の緑地帯の緑化協力団体として活動しています。

(株)スズキ二輪 <http://www2.suzuki.co.jp/motor/>

●社用車のエコドライブ推進

当社が業務で使用する社用車のエコドライブを推進しています。給油の際はガソリンを満タンにせず半分にとどめ、車内の整理整頓を徹底し不要な荷物を積まないなど、車両総重量を軽くすることで燃費の向上を図っています。スズキ環境計画2020に掲げる「販売活動におけるCO₂削減」に取り組んでいます。

(株)スズキマリン <http://www.suzukimarine.co.jp/>

●合同水難救助訓練への参加

2017年6月、湖西市消防本部、静岡県マリナー協会(西部支部)、湖西警察署、公益財団法人浜名湖総合環境財団などの機関が参加して合同水難救助訓練が行われました。スズキマリーナ浜名湖からレスキュー艇が参加し、水面に投げ出された要救助者を救出する訓練を行いました。



●浜名湖の清掃活動を実施

2017年6月、浜名湖の豊かな資源を守るために、浜松市、湖西市など浜名湖周辺の自治体や民間団体などが主催して浜名湖岸を清掃する「浜名湖クリーン作戦」に参加しました。漂着したペットボトルなど、大量のゴミを回収しました。



はじめに

環境

CSR

コーポレート
ガバナンス

データ集

ガイドライン対照表



海外グループ会社の取り組み

インド マルチ・スズキ・インディア社

マルチ・スズキ社は社会的責任活動(CSR)の一環として、関連施設周辺のコミュニティ及び地域社会全体の生活水準の向上を図るべく、活動に取り組んでいます。マルチ・スズキ社のCSR活動は地域支援、職業訓練、交通安全の3つの分野に大別できます。

マルチ・スズキ社は定期的に社会プロジェクトの効果測定を行っており、CSR活動の計画、及び実施状況の改善につなげています。

2017年度のマルチ・スズキ社のCSR活動費は過去3年間の純利益平均の2%を超える金額をCSR活動に充て、12億5,080万ルーピー(約20億3,300万円)に達しました。

地域支援

マルチ・スズキ社のCSR活動はハリヤナ州グルガオン、マネサール、及びロータック、並びにグジャラート州ハンサルプール、ヴィトラプール周辺の地域26村の住民の生活に変革をもたらしています。マルチ・スズキ社は地域住民に密接に働きかけ、ニーズ調査、プロジェクト策定、効果測定、中間見直し等のプロジェクト実施の全段階において地域住民とともに活動しています。また、地域住民との協議を通じて包括的な「農村開発計画(VDP)」を実施しています。2017年度の主な地域支援活動は以下の通りです。

●水道及び公衆衛生

地域のニーズに基づき、また地域住民との協議により、マルチ・スズキ社はその施設周辺の村落に適応した飲料水の供給、排泄物の処理等の活動を行っています。2017年度の主な水道及び公衆衛生の活動は以下の通りです。

- ・自己持続型プロジェクトとして10か所の給水器の設置
- ・1,000mに渡る水道管の設置
- ・1,200戸の家庭用トイレ設置
- ・16kmに渡る下水道の設置



●教育

マルチ・スズキ社は地域社会及びインド政府の教育部門とのパートナーシップに基づき、46の政府系学校に対し、トイレ、水道タンク、教室の建設等、インフラ整備を支援しています。2017年の主な教育関連活動は以下の通りです。

- ・生徒の教育水準改善のために教師40名を政府系学校に派遣



はじめに

環境

CSR

コーポレート
ガバナンス

データ集

ガイドライン対照表

●公共施設の整備

地域住民の生活の質の全体的な向上のために、マルチ・スズキ社は既存インフラの修繕及び改修、コミュニティホール、道路、村の街路、ソーラー式街路灯等の新たなインフラ整備を推進しています。2017年度の主な地方支援活動は以下の通りです。

- ・10kmに渡る舗装道路の建設
- ・250のソーラー式街路灯の設置

職業訓練

2017年度、マルチ・スズキ社は、日印両政府による共同イニシアチブの一環として、インドの若者の教育を目的とした「日本式ものづくり学校(JIM)」を設立しました。

マルチ・スズキ社はインド政府が掲げる「スキル・インディア」と連携して、産業人材を育成する学校として、職業訓練校(ITI)の訓練施設の改善、講師及び生徒への職業体験の推進、及び即戦力となる人材を輩出するためのソフトスキルの教育等に取り組んでいます。2018年3月1日時点で、マルチ・スズキ社は27の州で110のITIを支援しています。マルチ・スズキ社は下記の職業訓練プロジェクトを実施しています。

●日本式ものづくり学校(JIM:Japan-India Institute for Manufacturing)

日印両政府はインドにおいて製造業分野の技能を持った人材を増やすことに関して合意しました。本合意を実現するため、マルチ・スズキ社は2017年度にインド・グジャラート州メーサナ地区に日本式ものづくり学校「マルチ・スズキJIM(ガンパット ヴィディアナガール、メーサナ)」を開校いたしました。

技能カリキュラムに加えて、マルチ・スズキJIMでは日本式の労働文化及びソフトスキル・安全に関する訓練を、最新の道具及び機器を使用して行っています。JIMは自動車製造、保守、及びサービスに関して、自動車製造、整備に関連する8つの学科を持ち合計331人の学生を有するITIのモデル校です。マルチ・スズキ社は関連施設としては初めてJIMに、組立ライン、安全実習室、疑似溶接/スポット溶接シミュレーターを導入しました。



●政府系ITIのアップグレード

マルチ・スズキ社は、政府系ITIのトレーニングの質の向上を目指し、生徒及び講師を含む全体のレベルを向上させるため、施設の改修、生徒及び講師に向けた工場見学、特別授業の提供を行っています。

●自動車業界における技能向上

マルチ・スズキ社は73のITIにおいて自動車技能向上センター(ASEC: Automobile Skill Enhancement Centers)を設置しました。これらのセンターにはサービス工場が併設され、マルチ・スズキ社から派遣された講師による実践的なトレーニングを受けることができます。マルチ・スズキ社はボディ修理(ABR)及びボディ塗装(ABP)の特別コースも導入しました。生徒は実務的なトレーニング経験を積み、最新情報及び最新技術に触れ、実際のお客様とのやり取りを経験することで、質の高いサービス及び車両修理能力を向上させることができます。

交通安全における取り組み

マルチ・スズキ社は交通法規の執行や交通安全のために、最先端技術の活用に力を入れています。マルチ・スズキ社はインドで質の高い運転教習施設を増やす取り組みをしており、運転教習指導員の育成に力を注いでいます。また、マルチ・スズキ社は交通安全に関して、下記のプロジェクトに取り組んでいます。

●運転テストセンターの自動化

2017年度にマルチ・スズキ社はデリー準州政府の運輸省と契約を締結し、12カ所の自動化された運転テストセンターを建設、及び運営することで、運転免許証の発行プロセスの改善に協力しています。

これらの新たな運転テストセンターには、複数の高解像度のカメラ、リアルタイムのビデオカメラ、テスト採点機、及び車内カメラを通じた受験者の生体識別認証機能などを導入する予定です。これらの最新システムにより、運転免許制度を透明化、厳格化及び効率化し、交通安全に貢献します。

●交通安全管理システム (TSMS:Traffic Safety Management System)

マルチ・スズキ社はデリー警察と連携し、先進的な交通安全管理システム(TSMS)を導入し、首都周辺の交通渋滞緩和対策に取り組んでいます。

新システムにおいて、マルチ・スズキ社は先進技術を提供し、デリー警察が信号無視やスピード違反等の交通違反を特定し、罰則を科す支援を行います。これらの違反は高性能カメラを14キロ間隔毎に100カ所以上設置することで特定します。



●運転交通研究施設 (IDTR:Institute of Driving and Traffic Research)

IDTRはマルチ・スズキ社が州政府とのパートナーシップに基づいて運営する先進的な運転教習施設です。IDTRでは運転教習の基準を設け、運転シミュレーターのような先進技術の使用を促進し、運転教習指導員の教育にも力を入れています。現在、マルチ・スズキ社はインド国内で7カ所のIDTRを運営しています。



●交通安全教育

マルチ・スズキ社はターゲット毎に最適なキャンペーン活動を通じて、交通安全促進活動を継続的に実施し、道路利用者の行動を変えようとしています。2017年度にマルチ・スズキ社は交通安全教育キャンペーン“#PehniKya?”(ヒンドウ語で「シートベルト締めましたか?」)をインド全土で展開し、シートベルト着用の重要性を乗用車の運転手に訴求しました。テレビ、ラジオ、印刷媒体、デジタル媒体等の広告媒体及び実地活動等を通じて、シートベルト着用を促進しました。



●特定の都市での安全運転プログラム

マルチ・スズキ社はグルガオン交通警察とパートナーシップを締結し、安全運転、道路標識の見方、反射板の使用等を促進する等の様々なイベントを開催し、交通利用者及びグルガオンの交通警察から評価を得ています。また、グルガオン交通警察と連携し、主要な交差点で、歩行者向けの特別トレーニングも実施しました。現在、マルチ・スズキ社は交通安全促進のため、140人の交通指導員を提供しています。

表彰・受賞

2017年度にCSR活動分野で、マルチ・スズキ社は以下の表彰、受賞を致しました。

1. グルガオンでの活動が評価され、ハリヤナ州首相よりベストCSR賞を授与されました。
2. アマル・ウジャラCSR賞を鉄道大臣より受賞しました。
3. エコノミック・タイムズ紙のCSRベスト実施賞を受賞しました。
4. 交通安全教育キャンペーン(#PehniKya?)で、マーケティング・プロモーション賞を受賞しました。



はじめに

環境

CSR

コーポレート
ガバナンス

データ集

ガイドライン対照表

パキスタン

パックスズキモーター社

責任ある企業市民として行動するパックスズキ社は、特に教育、健康、環境保護活動の分野に貢献することを通して、より良い社会を実現し、恵まれない人々の生活の質を改善することを目指しています。

教育支援プログラム

●工学系学生への奨学金

教育は社会を発達させる重要な役割を担っています。それゆえ、パックスズキ社は2013年に教育支援計画を開始しました。パックスズキ社は、2017年8月30日に「NED University of Engineering & Technology」の26名の学生に奨学金を提供しました。この奨学金が彼らの目指す教育やキャリアを実現する手助けになることを期待しています。



●高校奨学金制度

経済的に恵まれない学生やパックスズキ社員の子供に対し、高等学校からガバメント・カレッジ卒業までの教育費を援助する目的として、2014年に“Higher School&Graduation奨学金制度”を始めました。2018年4月28日、パックスズキは64名の生徒に奨学金を授与し、奨学金対象者に対し工場見学、5S(整理・整頓・清掃・清潔・しつけ)及び改善活動の研修会を開催しました。



●中等学校奨学金制度

パックスズキは地域への協力をさらに広げるため、2017年より中等学校奨学金プログラムを開始しました。才能があるにもかかわらず生活難により中等教育すら受けられない生徒が中等教育を受けることを奨励することが狙いです。2017年12月21日、初の中等学校奨学金授与式が開催され、パックスズキより全国の6公立小学校卒業の成績上位者50名に対して奨学金の提供が発表されました。この奨学金制度には、文房具、通学かばん、弁当箱、制服の提供も含まれています。



●学校図書館の設置

パックスズキ社は2018年3月16日、小中高の生徒の識字率の向上を目的として、Haji Natho公立学校に本棚、書籍、椅子、テーブルを寄贈し、学校図書館を設立しました。



はじめに

環境

CSR

コーポレート
ガバナンス

データ集

ガイドライン対照表

●中古機械の寄贈

バックスズキ社は2018年2月13日、バックスイストレーニングセンター(PSTC)に旋盤、ドリル、フライス盤、穿孔機、スポット溶接機、アーク溶接機など、14の中古機械と100台の中古テーブルを寄贈しました。PSTCは1965年にスイス・パキスタン両政府共同で設立されて以降、技能教育により熟練した人材を創出することに重要な役割を担ってきました。



●小型トラックの寄贈

バックスズキ社は2017年10月25日、カラチ職業訓練校(KVTC)に小型ピックアップトラック2台を寄贈しました。小型ピックアップトラックは職業訓練校の教師および学校に通う知的障害のある生徒の移動に使われます。KVTCは知的障害者のリハビリや5歳以上の発達障害による学習困難な子供の教育、職業訓練、治療の支援に力を入れています。KVTCは、生徒が手に職をつけ自立して生きていくための能力を身に付けさせるパキスタン初の知的障害者のリハビリ施設です。



●工具、機具の寄贈

少年刑務所の受刑者の職業訓練、技術向上のため、バックスズキ社は、パンジャブ州のセントラル・ジェイル・バハールワルプルにある政府系職業訓練校(TEVTA)の二輪車整備コースに工具、機具を寄贈し、セレモニーが2017年12月27日に行われました。

TEVTAは無償で職業訓練、教育を行う100以上の学校を運営し、パンジャブ州の若者の技能教育、職業訓練のリーディングパートナーとなっています。



●VTIトレーニング・職業訓練の実施

バックスズキ社は、2017年4月・9月・10月・11月・12月にそれぞれ違う都市で、職業訓練校の二輪車学科の生徒を対象に研修を実施しました。職業訓練校の学生が、スズキの二輪車の知識を習得し品質への理解を深めると共に、エンジン、冷却システム、トランスミッション、電気系統など様々な分野の技術的な知識をトレーニングすることを目的としています。期間中に846名の生徒が研修に参加しました。



●交通安全教本の寄贈

バックスズキ社は、2018年1月26日に、高速道路・自動車道路警察(NH&MP)へ3000冊の交通安全教本を寄贈しました。教本は高速道路、自動車道路を使うドライバーに配布されます。現地語で書かれた30ページの教本は交通標識、安全運転の仕方、基本的な自動車の点検箇所、緊急時の対応、罰則などの情報が掲載されています。



はじめに

環境

CSR

コーポレート
ガバナンス

データ集

ガイドライン対照表

● テーブルの寄贈

パックスズキ社は、2017年1月、2月、5月に、各所からの要望に応じ、237の中古の木のテーブルを公立学校、健康・教育事務所、病院、パックスイストレニングセンター（PSTC）に寄贈しました。



● 車両の寄贈

パックスズキ社は、2018年2月28日、学校からおよそ20km離れた所に住む教師の移動用に、Uqaily Family & Friends Associationに車両を寄贈しました。Uqaily Family & Friends Associationは、女子に教育機会を与えるための目的で設立され、2010年から公立学校で貧困から脱出するために質の高い教育を提供する取り組みを始め、モリサッタにある様々な学校で取り組みを行い、2017年8月には校舎、職員室、実験室、コンピューターなどの施設を持った中学校を設立しました。



環境保全活動

● 植樹活動

学校の美化と環境改善を目的として、Haji Natho公立高等学校における植樹活動が行われ、2017年9月に完了しました。マンゴーなどの果樹を含む150本の木や芝生が学校の内外に植えられました。



地域における保健・安全活動

● 救急車両の寄贈

2017年8月11日、パックスズキ社はカラチ市のインダス病院に対し、エブリイ（現地名:ボラン）1台を寄贈しました。寄贈された車両は同病院の献血活動や救急車として使用されます。



● 道路標識の導入活動

2018年3月、パックスズキ社は同社ムルタン地域事務所とムルタン市交通警察と共同で、ムルタン市内に速度制限、ヘルメット・シートベルト着用を促す安全標識など43の標識を設置しました。ドライバー、同乗者、歩行者に安全意識を持ってもらい、交通ルールに従ってもらうことで、死亡事故、重大事故を防ぐことを目的としています。



● 医療器具の寄贈

パックスズキ社は、2018年5月10日、電気ポイラー、超音波検査器、止血帯、手術セットをバーンズセンター市民病院に寄贈しました。バーンズセンター市民病院は2005年からヘルスケアサービス、診察、手術を提供しています。66床の別途を融資、男性、女性、小児の診察が可能で2つの通常の手術室、1つの救急手術室があり、パキスタン国内だけでなく、近隣のイランやアフガニスタンからの患者も受け入れています。全身の50%以上を火傷した患者を受け入れ、無償で手術を施しました。バーンズセンター市民病院は形成外科と火傷治療の医療プロフェッショナルの研修や研究も行っています。



はじめに

環境

CSR

コーポレート
ガバナンス

データ集

ガイドライン対照表

インドネシア スズキ・インドモービル・モーター社

●職業訓練校への寄贈活動

学生教育への支援として、スズキ・インドモービル・モーター社、スズキ・インドモービル・セールス社は、自動車整備の職業訓練校に対して寄贈活動を実施しています。2017年度には四輪車を18台、二輪車を5台、エンジン・トランスミッション・ツールを50台、教材4点をインドネシアの24校に寄贈しました。また、スズキ商品に搭載された技術について知識やスキルを向上させるために、寄贈先の先生を対象としたトレーニングプログラムも提供しました。

寄贈活動を通じて、将来の自動車産業を担う人材育成に貢献していきます。



●学生向けの工場見学

学生にスズキ商品及びその製造工程を知ってもらうために、学生向けに工場見学を実施しています。インドネシア全国の小学校から大学までの学生をスズキの工場に招待し、スズキ車の実際の生産現場を学んでもらいます。

2017年度には計155校、12,000人の学生がチカラン、タンブン、チャクン工場を見学しました。



●スズキ交通安全運動「GESIT」

交通事故を減らす取り組みとしてスズキ交通安全運動（GESIT）という中学生を対象とした交通安全教育を実施しています。2017年度にはSIM社の4拠点近郊の中学校11校を訪れ交通安全のセミナーとデモを実施しました。2018年度は中学生をチカラン工場に招待し交通安全を勉強してもらうと共に、新型エルティガの生産工程を見てもらう機会も提供する計画をしています。



●浜辺の清掃活動

2017年9月25日に中央ジャワ州のプルウォレジョにて現地学校やコミュニティー200名と一緒に浜辺の清掃活動を実施しました。この活動のねらいは、コミュニティーに住んでいる方が地域を清掃し環境保全を推進する意識を高めてもらうことにあります。



タイ スズキ・モーター・タイランド社

●環境保全活動

スズキ・モーター・タイランド社では積極的にCSR活動に取り組んでいます。

2018年3月17日、24日に環境保護活動の一環として、ラヨン県ブルアックデーンのノンブラライ貯水池で植樹活動を行いました。ブロークデー市役所及び近隣住民の方と合同で行い、同社からは延べ258人の従業員が参加しました。



メキシコ スズキメキシコ社

●地震被災地の復興支援

スズキメキシコ社は、2017年9月19日にメキシコで甚大な被害をもたらした地震に対する復興支援として、トルバンやユニベルシダッド、ソファムモトスの販売店を通じ、ボランティアスタッフや救助者、救助活動を行った市民団体に食料や道具などの支援物資を提供しました。



はじめに

環境

CSR

コーポレート
ガバナンス

データ集

ガイドライン対照表

ニュージーランド スズキニュージーランド社

●基金支援活動

スズキニュージーランド社は、「白血病と血液ガンニュージーランド基金」を応援しています。この基金は、白血病や血液ガン患者とその家族の支援や、調査のために設立されました。当社はこの基金に車4台を無償提供し、当基金の広報活動や患者支援を応援しました。



●アウトドアイベントのサポート

親子参加型アウトドアイベント「Xレース」は、家族一丸となって様々なチャレンジに挑戦するイベントです。チャレンジは、綱引きなど体力チャレンジ、記憶力などの知能チャレンジ、音楽などの知識チャレンジ等があります。スズキニュージーランド社は、本イベントを若い家族が健全にアウトドア活動に参加できるよい機会であると見ており、車両を2台提供し、本イベントをサポートしました。



オーストリア スズキオーストリア社

●スポーツ活動へのサポート

スズキオーストリア社は子供向けサッカー教室への車両の提供など複数のスポーツ活動を後援しています。また同社では、オーストリアのパラリンピック選手への後援も行っており、2018年冬季平昌パラリンピックで銅メダルを獲得したCarina Edlinger選手や2012年夏季ロンドンパラリンピックに出場したGünther Matziner選手に車両を提供しています。



●社会活動へのサポート

スズキオーストリア社は「Krebshilfe Österreich」と呼ばれるがん患者支援団体に車両を提供の支援をしています。「Krebshilfe Österreich」は、地方に住むがん患者や、がん患者の親を持つ子供たちを支援しています。



中国

スズキ中国社

●植樹活動

スズキ中国社は環境保護活動の一環として、2017年10月に中国の内モンゴル、ウイグルなどの砂漠地域でスズキファンと一緒に植樹活動を展開しました。



●クリーンアップ活動

スズキ中国社は環境保護活動の一環として2017年7月に広州にある湖でスズキファンと一緒にグリーンアップ活動を実施し、湖の周辺に捨てられたごみの収集を行いました。



●二輪運転講習

スズキ中国社はスズキバイクのユーザーを対象に、2017年7月と8月に杭州と上海でSRA (Suzuki Riding Academy) という二輪運転講習会を行いました。SRAでは、大型二輪を安全に運転するための講習とスキル向上教育を実施しました。



海外生産会社の人財育成支援

一般財団法人海外産業人材育成協会(AOTS)の受入れ研修事業への参画、また海外生産会社からの研修生の直接受入れにより、社内の各部門で研修を実施しています。これらの研修は、海外生産会社の生産活動を支える実践的な技術や技能の移転を効率的に行うことで開発途上国の産業発展に貢献しており、また、わが国との相互理解や友好促進にも寄与しています。

海外研修生受入会社(2017年度)

| 国名 | 会社名 |
|--------|-------------------|
| インド | マルチ・スズキ・インド社 |
| | スズキ・モーター・グジャラート社 |
| | スズキ・モーターサイクル・インド社 |
| パキスタン | パックスズキモーター社 |
| インドネシア | スズキ・インドモビル・モーター社 |
| タイ | タイスズキモーター社 |
| フィリピン | スズキフィリピン社 |

●2017年度の海外研修生の受け入れ人数：146人

●受け入れを始めた時からの累計人数：22,850人
(1983年度～2017年度まで)



スズキの財団活動等

公益財団法人スズキ財団

スズキは、1980年より公益財団法人スズキ財団を通じて、研究者の科学技術研究に対する助成活動を行っています。

理念

今日、自動車産業は、エネルギー、地球温暖化、交通事故などの社会問題が深刻化する中で、省エネルギー、環境負荷低減、運転自動化など時代の要請に応えるべく、更なる飛躍の時期を迎えようとしています。このような状況の中で、小型自動車産業も国民のニーズに対応すべく、さらに一層の努力を続けていく必要があると考えております。そのためには関連する機械工業のより一層の高度な発展と、優秀な技術者の確保が何よりも大切です。そこで、機械工業の技術開発に関する援助・助成と、これらの分野に携わろうと意欲を燃やす若い人々に対する奨励援助を行うため、スズキ財団は、経済産業省ならびに各方面のご指導とご協力により設立され、活動を続けております。(スズキ財団は、1980年にスズキ(株)の創立60周年の記念事業として、関連企業とともに基金を寄託して設立され、平成23年4月1日、公益財団法人スズキ財団として新たなスタートを切ることとなりました。)

財団の活動

● 基礎的・独創的研究に対する助成

環境や情報、制御、材料、医療関連などの技術に関する基礎的・独創的研究に対し、社会発展の基礎を築く研究に助成を行います。これまでに全国の大学・高専・研究機関の研究者1,003人に、13億3,731万円(2018年4月1日現在)の研究助成を行い、科学技術の基礎研究発展に貢献しています。

● 課題提案型研究に対する助成

地球環境の保全やエネルギー資源節約、運転自動化等、早急に取り組みなければならない課題に対し、研究者が知恵を集結し解決を目指す研究テーマに助成を行います。平成15年度より助成を開始し、これまでに「自動運転車と人間の相互理解に基づく協調型自動運転技術」等の25件の研究に対し、2億4,782万円(2018年4月1日現在)の助成を行っています。

● 研究成果普及助成及び研究者海外研修助成

科学技術分野の基礎的・独創的研究成果の更なる充実・発展を目的として、国内外で行われるシンポジウム・会議等の開催、或は海外で開催されるシンポジウム・会議への出席等にかかる経費の一部を助成しています。これまでに537件、1億5,890万円(2018年4月1日現在)の助成を行っています。

● 海外からの研究留学生に対する助成

静岡大学とハンガリーのブダペスト工科経済大学の2大学間研究者交流協定に基づき、2大学とスズキ財団がタイアップして、平成11年度から行っている事業です。これまでにブダペスト工科経済大学から16人の研究者が研究留学を行いました。



はじめに

環境

CSR

コーポレート
ガバナンス

データ集

ガイドライン対照表

●海外自動車研修センターへの助成

平成28年度よりインドのグジャラート州内に設立された国際自動車センター機構(i-ACE)に対する自動車の設計、製造、サービスに関する研修のための機材・設備を助成しています。

●インターアカデミアへの支援

ヨーロッパの8大学と静岡大学が、国際交流活動を行うために、学生と教職員の研究発表を中心にソーシャルプログラムを用いた国際会議(インターアカデミア)を行っています。スズキ財団はそうした活動にも積極的な支援を行っています。

●総資産、助成件数と助成金額

- ・総資産(2018年3月31日):123億5,371万円
- ・2017年度助成件数: 65件(2018年4月1日までの累計:1,581件)
- ・2017年度助成金額:10,041万円(2018年4月1日までの累計:18億1,701万円)

公益信託進化学振興木村資生(もとお)基金への支援

病気の原因を解明し健康保持に努めて、楽しく豊かな生活をおくることは、人々の願いでもあります。進化学の研究部門でノーベル賞候補にまでなった、故木村資生博士の研究業績をたたえて、2004年12月、スズキの基金寄附によって「公益信託進化学振興木村資生基金」が設立されました。この基金では、遺伝学分野の研究を行い、大きな研究功績を残された方の顕彰を行っています。

はじめに

環境

CSR

コーポレート
ガバナンス

データ集

ガイドライン対照表

公益財団法人スズキ教育文化財団

スズキは、2000年よりスズキ教育文化財団を通じ、静岡県内にて青少年の健全育成に寄与するための助成活動を行っています。同財団は、スズキ創立80周年記念事業として、スズキグループが基金の全額を寄託して設立した公益法人です。

財団の活動

● 高校生・大学生への奨学金給付

静岡県内の高校生及び静岡県内の高等学校を卒業した大学生で、向学心がありながら経済的な理由で学業に専念できない方に、返済不要の奨学金を支給しています。2017年度は、高校生57人、大学生15人に総額2,268万円の奨学援助を行いました。

● 静岡文化芸術大学への奨学金補助

社会に貢献できる人材を育成し、浜松地域の発展に寄与することを目的としている「静岡文化芸術大学スズキ奨学基金」が行う奨学事業に対する一部補助を行っています。

2017年度は、150万円の補助を行い、同基金が行う奨学事業を通じて、静岡県内の向学心のある大学生を支援しています。



● 日系人学校「ムンド・デアレグリア学校」に経営支援

外国人学校支援事業として、外国籍の子どもたちに対する学習支援として、静岡県より学校法人の認可を受けている南米系外国人学校「ムンド・デアレグリア学校」(浜松市西区雄踏町、生徒数:幼稚園児から高校生まで288人(ブラジル系251人、ペルー系37人))に資金援助を行っています。

1990年日本の労働力を補うために入国管理法が緩和され、多くの南米系日系人労働者が浜松市を中心に住むことになりました。

「ムンド・デアレグリア学校」(浜松市西区雄踏町)は、この労働者の子供たちの学校です。2003年個人資金により設立、スズキを含む地元企業60社が支援を行ってきました。

2017年度は、300万円の資金援助を行い、「母国語で学習を積み上げ、日本語習得、そして日本の文化・習慣を学ぶことで日本社会に共生できる人材育成」を目指す同校を支援しています。



● これまでの助成実績(2018年3月31日現在)

| | | |
|----------------|------|-------------|
| ・奨学金給付 | 348名 | (2億7,516万円) |
| ・静岡文化芸術大学奨学金補助 | 7件 | (1,080万円) |
| ・外国人学校支援 | 6件 | (9,250万円) |